

十字路で立ち話抄二〇〇七年一月～二〇〇八年十二月

不断の仕事着

吉田惠吉

目次

デジカメ歩き	1
響きと相性	3
切り抜ける日々	5
撮りたて見れば	7
うまい具合に	9
久しぶりの滑り心地	11
どんな流れに	13
愉しみ再び	15
「死」は誰のもの	17
シーズン半ばで	19
老いへの青写真	20

羽虫の群れ時	22
揺れる家鳴り	24
日光写真もどき	26
見て滑って	28
要らなかった雪囲い	30
お陰様で	32
被災路の立ち姿	34
変わりゆく節目	35
気を通わせて	37
写真も人見知り	39
A B両面を呼吸する	41
ボールと銃器	43
アシモの歩き	45

雷鳥はばたく……47

気の畳み返し……49

使い切る難しさ……51

綻び繕う刈り込み……53

見えないパスコース……55

その場の捌きで……57

新緑を洗う雨……59

P. サイモンのステージ……61

向きを変えれば……63

寄せと退きの間で……64

データ消さなきゃ……66

気を自在に……68

五月雨通信	70
昆虫採集もどき	72
梅雨の出入り	74
〈漏れ〉履歴	75
梅雨の渡しで	77
からだは東にこころは西に	78
自在な回り道	80
響き溢れ	82
休日の街飾り	84
言葉の誘蛾灯	86
どんな線を辿って	88
夏の帽子探し	90
アブラカダブラ蝉	92

寄せて引いて……………	93
内なる沈黙宇宙……………	95
夏の終わりの……………	97
つまみおろす……………	98
夏枯れに雨が……………	100
にもかかわらず……………	102
休み明け……………	103
ちくしょう……………	105
老いつ追われつ……………	107
場違いな……………	109
住み慣れて……………	111
気配を細かに呼吸する……………	113

身の置き所々……………115

不断の仕事着……………117

出がけ帰りがけ……………119

体内から身振り手振り……………121

思わずできたら……………123

転んでも怪我しない杖……………125

寒さ早すぎ……………127

日溜まり散歩……………129

晩秋の河川敷……………131

十二月のぬくもり……………132

他人の振り見て……………134

潤い肩肘張らず……………136

ほどほどに……………137

師走の脱皮……………	139
歳末の形見……………	140
サプライズ……………	142
飲食の手触り……………	143
次から次へ……………	145
毒も皿も……………	147
背と裏腹……………	149
待ち受け……………	151
雪かき要らず……………	153
ちり紙シユート……………	155
雪まだら……………	157
「もの」と「こと」のあわれ……………	159

日々の渡し	161
ニヤンとなく	163
交感脱皮	165
馴染み時	167
向こう見えず	169
春一番過ぎて	171
ことによると	173
綴れ織り	175
九十九折り	177
桜前線ツアー	179
調べごと	181
斜に構えて	183
日和下駄探し	185

老いの蔵	187
スキーから自転車へ	189
会いたい時にいない	191
淡き緑に	193
自問愚答	195
どんな水辺へ	197
五月雨裏表	199
黙って引き直す	101
リセットできない	203
花咲く緑に	205
木の葉隠れ	207
軒端の着こなし	209

虫喰い穴ぼこ	211
梅雨の調べ	213
株分け	215
ムシの居所	217
夏への風向き	219
今朝の波紋	221
耳寄りな話	223
音の出所	225
芯を空っぽに	227
夏の意欲	229
夏の乗っ越し	231
水と油	233
汗かき塩梅	235

夏の記憶	237
負け方	239
縦から横へ	241
夏の虫眼鏡	243
風の盆に	245
聞かせどころ	247
迷路の別れ	249
XからYへ	251
新米刈り入れ老人	253
闇の金魚鉢	255
にわか仕込み	257
この歳にして	259

あんばやしもどき	261
謎の老人	263
夕焼けY字路	265
老いる食欲	267
薄ら寒く	269
逆さ柱	271
秋の陽射しに	273
寝覚めぬ夢	275
折り返し日和	277
名残り人	279
それにしても	281
新婚もどき	283
雑談@体育館	285

デジカメ歩き

どことなく古さと手狭さが身丈にあっている
わが家の暮れの煤払いのやりがいもなかったのに
年が明けてみればどことなくスッキリした感じが。

年末のゲレンデをじゅうぶんにぎやかにした
雪も止んだ穏やかな大晦日の夜回りや元旦の
初詣の往復散歩が1年のおわりとはじまりに。

境内の長くも短くもない待ち行列に流されつつ
何でこんな寒い時期が一年の始まりになったか
そこにはおそらく何事かの時季としての謂れが。

帰り道で写した路地の向こうの山並みの雪溪の
新雪も時と所を変えれば砂漠の草の川に
見えたりする映像が撮れるデジカメがあれば。

時には授かった生命の軌道から外れたくなる
季節を過ごすような心体のかかわりが長引けば
楽しく過ごせるはずの年末年始に魔がさしたり。

生命物質の誕生を感じさせる海底火山の

噴火写真を図柄に年の初めのカレンダーを作り
飾ったりビンゴで味わったお節料理は撮り忘れた。
(07.01.02)

響きと相性

おんなじ米なのに電気釜が違ったら味変わりしたりするのは何故なんだろうと思つたくらい内釜を弾き比べた響き方がまるで違うのだ。

よく分かつても分かりにくいようで何となく男と女のかかわり具合はトレードオフつていうか情報検索の再現率と精度のせめぎ合い。

内釜を取り出して指の関節でコンと触れた倍音の響きがいいのとそうじゃないのでは炊き上がり加減が似ててもご飯粒に違いが。

もともと男女は心身ともども関係が成り立ちにくいというか不可能めいた悲劇性を背負った男女の親和性という距離が極端になればなるほど男から女がわからなくなり女から男がわからなくなる。

倍音をうまく鳴らそうとドラムスティックでできるだけ軽く叩いても駄目だけど触れるようにそつと内釜を突いたりするとうまく響いてくれる。

男女のすべてのかかわりが成就する響きは

倍音を奏でるごとく隔たりを解消しつくし

包み包み込まれる親和性そのものが無くなるとき。

(07.01.05)

切り抜ける日々

ここ数年来の年末年始の散歩で

目立ったのは普通の民家のベランダや軒先のイルミネーションと路地伝いに民家の3軒に一つもない正月の飾り物。

かろうじてメンツを保ってきたわが家の年賀の集いからカルタ取りや福引きほかその場の座興も消えて久しいのだが。

食も酒量も細くなってきた松の内を

あれこれお酒のフルコースで飾りながら

荒む一方の家族絡み事件報道テレビを横目に

・幻界・現世・物語や・ゾンビ・映画の追っかけも。

高度化を追求する産業社会の目まぐるしさと

変わりようのない時空間に停滞する家族関係との

ズレの臨界点で家庭は崩壊を加速するしかないのか。

どっしり落ち着ける老後など約束されないし

つかの間の安堵に緩むというよりむしろ歪んだ

ひと時を計り続ける計測器を頼りに手探り足探り。

家族の数だけ太く短く細く長く願いはさまざまに
交差しながらそれぞれに幸せに仕込む暮らしの扉を
開け閉めする日々の狂気を繰り返し続けられるか。
(07.01.09)

撮りたて見れば

なんだか手持ちコンパクトデジカメで写した
画像が愉しめなくなってきた今日この頃だが
ほとんど毎日欠かさずとっていいくらい
ネットでいろんな作例を見ていたりしたら昨秋に
売り出されたデジイチの虜みたいな成り行きに。

実物触れてみたさに新年3度目の散歩で覗く

近所の家電量販店のカメラ売り場は相変わらず
入荷一ヶ月待ち表示なのによっぽど物欲しげだったのか
レンズキットでよかつたら昨日入ったのがありますよ！

年末宝くじ外れで諦めていたのにヨメが助っ人で
あつという間にお年玉付き素人デジイチバカ親父誕生。

小学生の夏の来る日も来る日も網を張り上げる
蜘蛛の様子や折り取った庭木の小枝を紙と鉛筆で
写し取ったりしたぐらいで借り物カメラを手に
一人旅や山歩きを愉しんだのは十代の曲がり角。

手始めに手ブレ補正なしでヨメが作った料理と
それを食べるおふくろに続いて手ブレ補正設定をして
不調続きで入院待ち状態の娘を写させてもらったり。

待たされ届いた Keb. Mo. の新作をそんな日の夜に
二人で聴けばまるで湯加減ピッタリの温泉みたい
湯気の立つような1枚を撮り下ろせるのはいつのこと。
(07.01.12)

うまい具合に

家を出てバスの乗り継ぎがうまくいくと
だいたいCD1枚分を愉しんだくらいで
キャンパス内に足を踏み入れることに。

5000曲を超えるiPodのシャッフルが
独身の頃に聴いたボブ・ディランで始まり
たまたま彼の最新作で終わったりすると
行きがけの通勤でもう一つ旅をしたみたい。

読み聴きそのほか年間ベストものから
すっかり遠ざかってしまったままだが
去年はデレク・トラックス・バンドの

I Wish I Knew How it Would Feel to be Free に始まり
ディランの Beyond The Horizon で歌い終わったかな。

そんな1年の間にあんなことこんなこと
どうにもこうにもいろいろあったなかで
片づけものをしていたヨメが見つけた
亡き祖父さんの株券がどうやら売れそうに。

放ったらかしてきたままの山林がそのうち

何かの開発にひっかかるなんてことがありや
せんだろうが権利書はどこへいったのやら？
(07.01.19)

久しぶりの滑り心地

昨シーズンは通わなかった立山山麓の雷鳥バレースキー場の経営破綻対応で県営から市営へ存続された滑り心地は？

ニートみたいな暮らしぶりになってからは平日の晴れた日を選ぶシーズンを過ごしてきた久しぶりに晴れた土曜日に滑りに出かけたならばバスや電車の運行ダイヤを読み違えてばかり。

スキークーポン2枚お願いした窓口のお姉さんが当日の営業を確かめただけでなくもし営業していないようでしたら払い戻しますだなんて。

県営だった頃は窓口でクーポンを売っておいて着いてみたら強風でゴンドラ・リフトが動かず滑られないから払い戻すなんて一度もなかったのに。

ゲレンデから見とれた暖冬の山並みは樹影が織りなすグラデーションをどう写しとれるかまだ使い慣れないデジイチの格好の風景だったが。

デジタル通信技術がどんどん拡がり高速化してきても

大会当日なのにジャンプ台が雪不足で滑ることも飛ぶことも
ままならなくなってきたような社会的現実への対応はまだまだ。
(07.01.23)

どんな流れに

期末筆記を実施した後期最後の授業でもあれこれ問いかける学生がいたりしたが三期に渡った教室時間もこれでおしまい。

あとは採点票を教務に出すだけで二度と顔を合わせることもないだけに将来ある学生らの見納めっていう積み重ねは残る。

最近見た若い顔では卓球の全日本選手権の決勝を戦っていた女子選手が対戦相手やコーチに向けていた目の力が際立っていた。

やがて本人が顔に表われるにしてもその前に持ち堪えるように親が秘めてきた宿命の毒が子に受け継がれて花開こうとするみたいに関との合わせ鏡を生きるようなことになりがち。

逃れようもなく死にたくなる凹みの裏側に処世の手がかり足がかりを求める膨らみが張り付いたメビウスの輪がもつれて解けない。

母なる川床が父なる水流で転がされた
石ころで刻まれた痕跡だけが残されている。
(07.01.26)

愉しみ再び

昨日はひとシーズンに数えるくらいの山日和で

やりかけの期限付き仕事や家事の手を休めて

通勤・通学の人波に逆らうように立山山麓スキー場へ。

毛勝三山と大日岳の間からのぞく

旭岳や白馬岳のくつきりした姿に寛ぎ

富山平野を翔んで富山湾へ浮かぶ滑り心地。

通い慣れた志賀高原や二日滑った蔵王は遠い彼方へ

馴染んだiPodもコンデジやデジイチも下界に置き忘れ

もうワンシーズンの延べ滑降距離なんてどうでもいい。

これまで当たり前のことが覚束なくなり

出かけて滑りを愉しめる技を維持したり

使いこなすだけの気力や体力が心許ない。

馴染の女将さんの弁じゃシーズンには雪に

埋まった小屋の掘り起こしが大変な一方で

2月で小屋を閉めなきゃならないことも。

午後の陽射しの窓の外にはカンジキを履いた

山歩きで見事に雪焼けした年配の夫婦らが佇み
幾つになってもときめく姿がゲレンデに映える。
(07.01.31)

「死」は誰のもの

なんだか雪吊りや雪囲いも取っ払いたくなる
ポカポカ陽気の翌日に春一番みたいな突風が襲い
その翌朝になったら吹雪くほど冷え込んできて
屋内に取り込んだ鉢植え植物の水やりも狂いそう。

馴染んだ冬籠もり季節感とのズレや食い違いを
際立たせるように出戻り娘を監禁したあげく
亡き者にしてしまった家族のニュース画面が。

家族や他者に何を求めるかモチーフはさまざま
としても嫁いでうつを病んだ娘の遺書を破り捨て
ほどなく子を連れ実家に舞い戻った息子の離婚を地縁に
ひた隠し嫁親が説明に来て謝れと電話で呼び出そうとし
身近にふってわいた孫の相手をもてあましたみたいに
仕事も辞め年金生活でどうせひまだろうからあんなが
とにかく養育をと迫られた茶の間を訪れたのは去年の冬。

そのようにしかならなかつた事実をまず見つめ合い
どうなってるか当事者やとりまきが認め会わずして
どんな話の取っ掛かりにもならずもつれて疲れただけ。

うつによる自殺念慮から何度も実行を繰り返し

そのうちどんな手段でも選んでしまいそうなの、
言ってる方も聞いている方もまるで「死」を楯に
脅迫関係に陥っているようなものじゃないか。

老いて祖父が弱ってきた時もそうだったけど
朝起きてこないおふくろを「もしや」と感じて
覗いて見たりする日々が避けられない日常とは違う。

おそらく還暦を迎えるまでにほとんどの人は
自死の瀬戸際に引き寄せられたに違いあるまいが
踏み止まれたのは「死」が自分のものじゃなかったから。

どこか〈自然〉が加担しないことには家族や
見守る他者も受けとめられないくらい「死」は
誰のものでもないから〈自然死〉を目指すことに。
(07.02.16)

シーズン半ばで

昨日滑りに出かけた立山山麓から帰らないで

一泊して滑り続けたくなるような日和も下り坂に
ゲレンデ下部ではブッシュや石ころを噛みやすく
ゲレンデ上部はスキーヤーの技術を試してみたいに
圧雪バーンは午前がカチカチで午後はシャーベットに。

平野部に根雪がなく今年はさぞ田畑や庭に害虫が
なんて噂をしていたら例年より早い薬剤散布を業者が
済ませたようで庭木がなんだか親父の体臭みたいに匂う。

部屋から庭を眺めるぐらいで散歩もままならない
おふくろがスキーの昼飯代をくれたりしてびっくり
遊び回れるうちに愉しんでおけと言われてるようだ。

朝のひと滑りを愉しんだ親父スキーヤーが10時前に
缶ビール片手にひと休みしたりしていたけどマイカー族
じゃない僕ら夫婦だとスキー板や靴を片づけてから
白ワインを雪で冷やして帰りのガラ空き電車内で
飲もうにも二人ともコルク抜きを入れ忘れお預け…

日々の贅沢忘れず時には苦笑いするようなひと時も。

(07.02.21)

老いへの青写真

ゲレンデもすっかり雪溶けが見込まれ
快晴三日目の昨日は雪囲いをしていない
縁側からサイクリング車を2台運び出し
スキー板から二輪へと日和を漕ぎ分けた。

雪が積もらなくて庭のモグラが起きたみたい
例年になく水かさが増した川べりを走れば
水鳥の影も薄くデジカメが手持ち無沙汰に。

先週の日曜に久しぶりのバドミントン大会に
デジカメ持参で参加した山麓の体育館辺りも
雨上がりの雲が愚図つき雪景色ひとつ写せず。

試合の合間に定年退職が近づいた知り合いから
どうやって家庭を維持しているか問われても
この期に及んで、悠々自適^{ユウユウジジツ}だけは縁がなさそう。

さて持ち合わせた金を係累に残すなどもつてのほか
それとも営んできた家の履き心地をやり直したいのか
寡婦暮らしの高齢独居老人が家を建て直すなんて。

あり過ぎて
もなき過ぎても
困る音沙汰
みたい
どんな響き
でなにが聞
こえるか
老いゆく
アルバム。
(07.02.23)

羽虫の群れ時

背戸の軒と庭木の間で夕陽を浴びて羽虫が群がり時間が留まったように蠢く塊をデジカメで撮ろうとしたが手持ちレンズキットじゃどうにも寄れない。

リタイアしたりして常勤から非常勤に変わって空いた時間のありつたけを授業準備につきこむ先輩の話を聞いたりすると他人事じゃないね。

明治生まれの祖父は常夜灯を消してまわったが大正生まれの母も似たようなことをやるようになったり働かざるもの食うべからずがひっくり返される余裕のなさ。

道具の持ち腐れにも入れ込み過ぎた道楽にもなってしまいがちな人それぞれの趣向のありようで本人や取り巻き連中にとって毒になったり薬になったり。

何かと情報化が進んで世の中が便利になるにつれひとやものごととの関わり方が崩されあいまいなだけにどこまでが正常か異常かわからない境界領域であたふた。

梅林に小鳥を見かけて鶯といたりメジロといたり

眺める立ち位置がちよつとズレただけでもモノの見方が
しらけたり引きずられたり独りの時間が先細る夕暮れ。
(07.03.02)

揺れる家鳴り

昨日は明け方から昼前にかけて突風が吹き荒れ
久しぶりに古びた家の揺れを愉しみながらも
吹けば飛びそうなやりくり家計の脆さがバタバタ。

住んでもいない家屋の大補修工事をやる人もいれば
あちこち老朽化に伴う木造家屋の部分補修の繰り返しで
リタイアする頃には新築の目処が立たないような人も。

今どき真面目に働いて結婚し子を授かり
共働きで土地を買ったり家庭を励みに勤め上げ
とりあえず年金生活に不時着できようか？

昨年あたりフリーターやニートの数が減ったようでも
「現状」からの出口をもう「戦争」に託すしかないとする
三十一歳のフリーターの月刊誌での物言いをめぐると話。

日本国民の平均所得層から落ちこぼれざるを得なくて
頼れるものなど何一つ見つからなくても日銭でつなぎ
生き甲斐のなさに踏みとどまるしかない毎日だとしても
いつ何がやってくるかとにかく生き続けるしかなさそう。

隣の貧乏雁（鴨）の味を常食する既存秩序の逆転弾を

世代間のギャップに撃ち込み続け運良く経済的弱者から
抜け出し一丁上がった足踏みを繰り返さない方途は？
(07.03.05)

日光写真もどき

これぞ泡雪なのか淡雪なのか今朝から
屋根や庭が日向か日陰かで雪解け具合が
ここ数日来の寒暖入れ替わり凶解のよう。

陽を照り返す雪斑や水浸しの庭が眩しく
見慣れた眺めなのについついデジカメを
持ち出したりして偶感雑写の繰り返しに。

机周りや書棚とおんなじように片づかない
撮り駄目がどんだん貯まって悪ガキの頃に
日光写真に振り回されたのと同じじゃないか。

写したすべての画像の細かな撮影条件を
表わす説明がメタデータとして読めるが
なにが良し悪しを左右したかがよくわからない。

映画でも見たルワンダで起こった民族を異にした
殺戮を危うく生き延びた女性が書いた『生かされて。』で
刑罰の鼎が善悪色を失ってしまう〈許し〉は何処から？

写してしまったものはもうどうにもならず

足したり引いたり取捨選択してアルバムは
もう撮り直せない日光写真と同じことに。

(07.03.09)

見て滑って

昨日の全日本モーグル選手権を見がてら
スキーに出かけた間に庭の雪吊り外しが
済んでいたのを今日の昼になって気づいた。

急なこぶ斜面を滑り降りたエネルギーを
エア―に仕上げ2回とも着地を決める選手の
スピードと高さはともテレビじゃ伝わらない。

おそらく全日本クラスの試合観戦だと
たいがい金を取られるのに世界レベルの
男女選手が出ているのにこれはタダなんて。

ギヤラリーの数もたいしたことないし
急な斜面に立ったまま見上げる姿勢が
きつくないよう公式練習や予選や決勝の
合間に滑って身体をほぐすように温めながら。

エルニーニョが撤退して雪不足は何処へやら
三月半ばにしては上々のゲレンデコンディションで
スキーの妙技を見たり滑ったり交互に愉しめた。

決勝の凄さを讃えたスキーパトロールの声にも

日頃の地道な作業の中でいろんなスキーヤーを見つけてきた経験からこぼれる響きが見え隠れ。
(07.03.16)

要らなかつた雪囲い

立山山麓スキークーポンがお終いになる

春分の日の晴れ間に板や靴など陰干ししたり

デジカメに写したりして今シーズンの使い収め。

家事を手伝い小6からアルバイトで小遣いや

学費を稼いで小・中学校を通り抜け育英資金で

高校を出たりしたせいかな夜学の授業料減免は

無視して自費で卒業した引揚げ母子家庭育ち。

スポーツなど奥手というより3〜40代になって

ようやく道具を得て見様見真似の手習いが面白かったが

今どきケータイもあたりまえな小学生の学びの場はどうか？

いっこうにバドミントン練習の準備をしない

子どもらに声をかけ待っていると若いコーチや

父母会の体育館の鍵当番がネットを張り暗幕を引く。

あらかじめ何でもかんでも用意されているみたいで

くじを引く前に当たり景品が分かってしまっている

としか見えないやり取りが家庭と学校を行ったり来たり。

情報検索演習の簡単な課題に何をどうしたらいいのか

ある事柄について調べるといふことそのものが分からないと言ってくれた選択履修学生にどんな言葉をかけてやれただろう。

雪囲いを仕掛けてどんな冬か過ごしてみないことには

どう役に立ったかなんて誰にも分からないからこそ

ほんとうに近づく学びはまずやり始め続けることから。

(07.03.23)

お陰様で

昨日みたいな余震が今日に続かなくて
とりあえずやれやれといったところだが
身体には一昨日の朝の「震度5弱」の余韻が。

例年になく暖冬で屋根雪などの積雪が無かったとはいえ
能登半島地震被災地は雪かき仕事に比べられない大変な事で
福井と新潟の間で起こりにくい言い習わしもひっくり返った。

朝飯をすませ建増し二十数年の納戸の2階の木造書齋で
内田樹著『下流指向』を手にテレビで高校野球を見ながら
ヨメからコーヒーカップを受けとって卓上の受け皿に載せ
口にする間もなくグラグラッときて下へ落ちそうに揺れた。

椅子から立って暖房を消しおさまるのを待つて震源地を聞き
まっさきに今じゃ能登半島の先端で暮らしている孫らの安否が
気になったがいつの間にもやら娘が車を走らせていて電話してきた。

高齢だが元気そうな被災者の姿をテレビで見かけると
血縁や地縁を大切に暮らしを営まれる方々のようで何かと
知恵を働かせ助け合って切り抜けられる最後の世代みたい。

昭和四十年代の半ば過ぎ新婚ホヤホヤの団地住まい

同居していた療養中の義父の食事は何とかするからと
隣のパン屋さん夫婦のお世話で新婚旅行に出かけられた。
(07.03.27)

被災路の立ち姿

梅が散って鶯の初鳴きで目を覚ましたりする
朝がめぐってきたように能登半島地震被災から
数日にして朝市を再開した年配者の立ち姿は
お互い自立しながら助け合う地元復興の手始め。

阪神大震災直後に店舗を再開し生活物資を
安く売った中内ダイエーが忘れられないけど
まず地域に根ざした商いによる立ち直りだね。

衣食とりわけ住はその場しのぎになりがち
数年前の風速40メートルの台風で大屋根の
棟瓦が捲れ飛んだわが家もそろそろ築四十年に。

増改築やあれこれ改修工事を重ねるより
娘を嫁に出してリタイアする前に思いきって
災害に強い平屋に建て替えるべきだったと
震度5弱で揺すぶられたように気づいても
資金繰りの手だてもない年金その日暮らし。

遠い昭和の高度成長期サラリーマンをすっぱ抜いて
「無責任男」を歌い切り「延命措置は要らない」と
端折って逝った芸能人の心意気で花見を飾りたい。(07.03.30)

変わりゆく節目

ものすごい雨風と雷が3月を締めくくり
目くらましのような黄砂で4月の幕開け
相変わらぬ季節の変わり目の体調不良みたい。

地震で揺れ動いた書棚から出っ張った本の間で見つかった
吉本講演DVDを「吉本隆明 [Audio-visual Material] 2次資料」に
追加記載したり今年度も受け持つことになった前期司書課程の
担当科目のWeb教材を見直したりしながら体調も持ち直し。

スキャンした図書をネットで検索して読めるように
講演なんかもアーカイブ化しておけばいつでも聴ける
そんなサイトを夢想しながら吉本講演を聴いたり新著の拾い読み。

瑞龍鉄眼『鉄眼禅師仮名法語』を読んだ吉本解説にいわく
《身体性からみた個々の人間は、その時期までの人類史を身心の活動性として内包している。
これを「小」人類史とすれば、いわゆる人類史（政治、社会、文明、文化の歴史等）は、
生物を含めた世界の各地域の人類の身心の活動性から見られた現在までに至る外在の「大」人類史として存在する。
この「大」「小」の人類史を媒介するものが遺伝子（種の要素）、地域言語、地域風俗習慣などの地域活動性だともう。
精神活動からみれば、個人幻想、対幻想、共同幻想類と、外在自然史との関係が人類の存在根拠であると思える。》

幼く青く壮く老年期へと節目を踏みこたえ続ける

身体性を発揮する軸となる「読み・書き・算盤」の高度化に対応できる能力の伸び代を保つにも健康で金が続かないと。

常葉菊川ー大垣日大・選抜高校野球決勝戦を見てたら

ピンチでもチャンスでも打って走って投げて守って

普段から練習してきた力を出し切った両チームに笑いが。

(07:04:03)

気を通わせて

もうめつたに会うこともない孫っ子が
小学生それも全学年あわせても百人余りの
一人として昨日から通うようになったはず。

親それぞれの思惑なんか見透かすように
家庭の事情そのほかすべて感じてしまつて
いるつてことをゆめゆめ忘れるなかれ。

たまたまテレビで観た小津安二郎の
映画のように腹の坐つた呼吸を下地に。

よくぞ出会えたというような叔父さん
叔母さんにあやつられる脱線なんてのは
今どき薄らいできてるんじゃないだろうか。

そろそろ中年にさしかかった甥っ子から
地震見舞いがてらの便りとお菓子が届いて歳を
数えたらわが家は一九七二年に建てた家なので
震度7だったらひとたまりもない造りだろう。

なぜかいまに起こるかもしれないと思つていた

事態がやってきたようで家族も家も無事だったのが
何が起こってもおかしくない時代を生きているあかし。
(07.04.06)

写真も人見知り

先週末の花便りに川べりの自転車散策も

デジカメを持ち歩くとスキーと同じように
なんとなくiPodがお留守になってしまう。

酒屋にヨメが立ち寄った合間に写した桜並木の根元に
ひとり蹲る子どもからちよつと離れて立話の大人たちと
積まれたビールケースの傍らのドラム缶にワインの空き瓶。

花見弁当を買ったデバ地下周辺の商店街も

人通りの切れ目を待って何枚か撮ってみたが
それでも誰かが写っていると悪いことをしたみたい。

お面を並べた露店を撮りたくなって香具師に

一言頼んで一緒に撮らせてもらおうにも昼寝中で
勝手に写してしまったけど横に立ってもらいたかった。

桜並木に立つオブジェの裏側に二人並んで腰掛け

飲み食いしていたら隣のベンチの二人連れご婦人に
写真を頼まれたり通りすがりのロシアの団体さんが

観光写真に撮りたがってあわてて画角の外へ逃げたり。

仕事や用事以外の電話になかなか馴染めなかったが

どうせ散るなら花は西行のように紅葉は良寛のように
見知らぬ人と挨拶を交わしながら撮りたくなった人の
自然体を被写体にするなんてことはとてもできそうもない。
(07.04.10)

A B両面を呼吸する

レコードなるものがこの世にあつて

A面が終わつたらB面を表にすることを
覚えたのは小学生になる前に母の実家で。

SP盤からはじまり10インチ盤から

12インチ盤となじんだLPからCDへ
変化した感触も薄らぐダウンロード聴き。

買った新譜をターンテーブルに載せ針を下ろす
喜びと不安が裏表に張り付いているかのように
ひっくり返しながら音楽を呼吸してきたのか。

人間にもいったいどんな面が隠されているか
家庭内暴力で発散していた祖父も最晩年には
好々爺の見本みたいな姿に立ち返って力つきた。

〈超人間〉(吉本隆明)として語られる一方で

〈新老人〉(日野原重明)なるグループ活動など
前期や後期もない高齢者の表現が目につくように。

毎日の立ち居振る舞いをハアハア持ちこたえ

年ごとに浅く短くなってきている母の息づかい
老いも生きやすい呼吸を保つ身体操法の体得は？
(07.04.17)

ボールと銃器

百年前の蠟管録音の再生に成功した芸者衆や大隈重信やナイチンゲールの
お喋りに共通するゆつたりした響き。

まだ聞き取りにくいとか声が小さいなど
文句は言われてないけど自分はせつかな
しゃべりをしてきたに違いない往復の繰り返し。

教室へ出かけるバスで葉桜から梨花に眺めが
様変わるように当日の授業テーマをあれこれ
転がすように図書館でブラウジングしていたら
教育基本法の改正と図書館サービスのかわりを
うっかり見落としていたことに気付いて準備したり。

さわやかな日差し溢れる昼下がりの教室の
窓際から見下ろす学生らが教えてくれたのが
今年度から始まったとかいう在学生のイベント。

女子学生も加わったストリートバスケットなど
なかなかの組織プレーを見せてくれたりして
思いがけないナイスショットをデジイチに。

アメリカのバージニア工科大学の一学生による
銃乱射の惨劇が示すのは独立戦争当時の植民地の
市民を守った銃が今じゃ彼らの組織を壊す武器に。
(07.04.20)

アシモの歩き

毎年提出がてんでんばらばらなのにはじめて履修生がピツタリ全員揃って一度に演習課題を提出してくれたりとすると出来過ぎでつまんない。

足並みそろえて一糸乱れずなんて嘘臭いからかろうじてどうにかこうにか収まりがついてとりあえずよしとなってくれば儲けもの。

たまたまTVのサミュエル・フラワー特集で「鬼軍曹ザック」と「赤い矢」を見比べたら戦争ですぐ死ねる歩きと生き延びる走りの場面が。

図書館の新着棚にあったIT企業コンサルタントと芥川賞作家との対談本の噛み合わせ加減に拍子抜けICT社会のドン・キホーテを演じるボケとツツコミは何処に。

月曜の昼前に帰った娘は勤め先の社長の支店転勤命を通勤できないからと断ったら首を切られてしまったなんていつていたが。

それぞれ病を抱えたり時代に足をすくわれても

力んで踏ん張りすぎ大怪我しないようほどほど
緩みすぎない中腰でしっかり呼吸できる歩きを。
(07.04.24)

雷鳥はばたく

朝方の雨で洗われたように揺れる庭の緑が
富山サンダーバーズのチームカラーになって
雷鳥といえ白か茶色のイメージを覆したな。

連休初日のアルペンスタジアムで鈴木康友監督の
国歌独唱や中畑ゲストによる幸せになろうよが
北信越BCリーグのホーム開幕戦を飾ろうとは！

残雪の北アルプスを背景にハナミズキが映え
野球小僧や小父さんに混じってペダルを漕ぎ
久しぶりにバックネット裏で飲むビールも格別。

ハラハラドキドキ信濃グランセローズと1点を争い
好プレーでなかなか得点させない相手チーム選手に
拍手と歓声が吹き抜けた内野スタンドに6500人も。

連休めがけ受け持ち科目の履修生に課題を出す
なんてしたことないがそれぞれがやりたいことを
やりつくすところから他人を思いやる行為が生まれる。

優れた思想には親兄弟や他者がどう織り込まれるか

高橋紀子氏の「兄隆明の思い出」の「兄妹の永訣の日」で
照らし出された情景から溢れる温もりと切なさは何処へ。
(07.05.01)

気の曇み返し

雨をたつぷり受けた新緑が日盛りには
陽射しにしんなり垂れて風にそよいだり
デジカメでは撮れないような揺らぎが。

連休中にも2度ばかり手足が冷たく
首筋から肩にかけて強張り気力も抜け
呼吸が不安定になったりした時など
身体をゆるめ下腹からゆったり息をし
視界に庭木の緑があれば眼まで休まる。

中学生の頃だといかに剣道で強く
喧嘩でも負けないようにするには
なんてことを思っていたようだけど
今じゃ日常の立ち居振る舞いがどうよ
みたいなことが身体的な関心事になって。

練習に来てない子どもが出来ないからといって
参加した子どもの前で欠点としてあげつらうより
コーチならそんな子も上達できる道を示さないと。

投げたり打ったり飛んできただけじゃなく
止まっているものもすべて打ち返すのに左右の

股関節で構えとインパクトのタイミング合わせ
何とか出来たとしても子供らにどうやって見せるか。
(07.05.08)

使い切る難しさ

ポリタンやタンク内の残り灯油をカラにする
肌寒い朝晩を飛び越したみたいに暑くなったり
ピツタリ使い尽くして次に備える暮らしの舵取り。

空き家だった隣家に住みはじめると若夫婦や
裏の空き地に新築の運びになった老夫婦の
挨拶が新緑の風とともにわが家の呼び鈴を押す。

生き抜く稼ぎを最優先して子どもに残さず
日常の立ち居振る舞いから生涯運動まで
身体的な遊休地を残さない柔らかな日々。

家族みんなで同じ食事を囲み続けてつきない
話題がデザートのように繰り返される毎日から
それぞれの持ち場へ出かけいつでも帰ってくる。

通える道場がなかったら独り稽古しないと
どのような気付きがあるやなしやわからず
ろくでもない人や組織に惑わされる暇は無い。

過ぎたことや先のことなど端っこばかりに

気を使いすぎ倒れないよう真ん中探しは
手近に与えられた場でやり尽くすことから。
(07.05.11)

綻び繕う刈り込み

大雪の時は雪捨て場だった背戸の空き地へ日除け風除け樹木の枝が伸び放題になって近所づきあいの甘えを刈り取らなくちゃ。

塀を跨ぐ下枝を何本か切り落としたが高いたところは不得手だし落葉樹と違い丸坊主にでもしたら針葉樹は枯れそう。

軒先に持ち込まれた第二の自然みたい屋内の猫や犬そのほかの生きものには同居する家族関係が反映していやしないか。

まるで抜け毛のように落ち葉がつもりほどなく雑草のように獣臭も蔓延って寡黙をしまい込むように染み入るのか。

自転車で家から走り出したりすれば市内の更地に見合うように郊外では屋敷森が切り倒され空き地に何が建つ。

人と人の一次体験が錯綜を重ねるほど

逃げ込むあたりで二次体験はどのよう
に動物や植物と向きあうようになる
だろう。
(07.05.15)

見えないパスコース

授業帰りのキャンパス・バス停も高校生や短大生で混雑時のバス乗車マナーはほめられたものじゃないが北のJRローカル駅で通勤通学時の乗客を積み残し車内奥へ詰めようとしてない高校生が全国ニュースに。

車両を増やせと言った高校教師には生徒の振る舞いがこれまで規律でがんじがらめにされてきたことへの無言のパスワークになっているのが見えないのだろう。

教室内での飲食や携帯使用禁止もどこ吹く風

私語を絶やさず授業を聞いているのかいないのかとにかく拒否姿勢維持が彼らのチームプレーなのだ。

会津若松で高校生が切断した母の頭部を携え

ネットカフェでマリリン・マンソンのDVDを観賞しその後タクシーを呼んで警察に自首だなんて。

「酒鬼薔薇聖斗」あるいは「少年A」によって

十年前に神戸の中学校校門前に置かれた生首がコースを変え蹴り込まれたらギョツとするしかない。

中学生や高校生が家庭や学校からはみ出す
パスワークでつながれるボールが目指している
敵陣を守るキーパーの後ろにどんなゴールがあるのか。
(07.05.18)

その場の捌きで

去年のように予約し忘れなんてこともなく
地区センターで定期検診を済ませただけど
元痔主としては造影剤の排泄が気がかり。

明治生まれ医者嫌い祖父は検診無し九十九歳で往生
ひと頃病院の薬袋と一体だった大正生まれのお袋は
ここ数年通院も止めたし検診にも関心がなさそう。

リタイア後の息継ぎがはつきりしないみたいなの
過呼吸について聞けそうもない複数問診の場では
共同トイレ待ちみたい流れない受診者の列がギクシャク。

圧倒的に女性が多かった昭和生まれ受診者だが
親の世代と子どもの世代の双方とのぶつかり合いで
修羅場のひとつもくぐり抜けて身につけた捌き方を。

ワンマンカーの許容定員内の乗車混雑ぶりだったら
後乗り前乗りがかわらず前後のドアを開けたりできる
運転手と乗り合わせたら積み残されず遅れもあるまい。

それでも駄目なら紋切り型のマニュアル発言より
奥に詰めてみんなが乗り終えるまで発車できませんから
とかなんとかその場のみんなの気持ちも身体も動かさないと。
(07.05.22)

新緑を洗う雨

三日続きの夏日に海辺のサイクリングに出発して連日出現したらしい蜃気楼を見逃し写し損なつたのがちよつと残念。

ぶらぶらデジカメ片手に散歩してたりしていま・ここ撮りたい呼吸が合わないというか間合いをやり過ぎし気付いたときはもう遅い。

田舎少年の頃の夏に家の床下に潜り込み蜘蛛の巣の迷路をひんやり動き回つたり自在な木造家屋の縁の下感覚を思いだした。

地面に流し込んだ型枠コンクリートに木材をボルトで締めつけた土台に建てて木造家屋に住んでるように思い込んだり。

日々を暮らす立ち居る舞いの座である
身体操作もそんな縛りに捕われていては
思い込みに居着いた分だけ自在な動きの妨げ。

身体のどこも滞らせたりしない動きで
腰や肩の痛みも消し去るような毎日なら
気働きの歪みや不愉快も洗い流されよう。
(07.05.25)

P・サイモンのステージ

かなり長かった会社勤めをおっぽり出し
専業主婦やパートを繰り返したヨメはだいぶ前に
社保事務所に出かけ年金記録の確認修正したという。

まさかそんなことが五千万件を超えていたなんて
この危なっかしさはそもそも国家の施しめいた
カネを頼りに食い繋ぐあてど無さに由来しないか。

定年退職者それぞれが長年培った様々な技能と
肩書きじゃなく退職金の一部をもち寄った地域で
会社経営の分担に応じた見返りを手にする夢物語。

破綻しかけた制度や家族のしがらみに抛らず
生計が営めるような老い先の生活設計どころか
身体を壊してリタイアするしかなかったていたらく。

テレビのスタジオ・ライブで見かけた

P・サイモンは優れたメンバーと共に
いいパフォーマンスで老いを演じていた。

自らの曲作りがあつての歌作りにおいて
同世代のディランやヤングとも話したことも
なさそうな気構えがみなぎっていたようだ。
(07.05.29)

向きを変えれば

国内のどこかの公共図書館の資料購入費が今年度から9割削減なんてニュースには実質ゼロじゃないかと言うしかないけど財政難で公共図書館すべて閉鎖なんて報道も。

図書館目的税なる増税を課すことによつて図書館再開館の是非を問うジャクソン郡の住民投票では6割弱の反対で存続ならず。

米国オレゴン州ではジャクソン郡以外でもことごとく同様な否定があいついだようだがインターネットそのほか図書館によらない情報サービスで間に合うとする住民の判断か。

ネットワーク社会の図書館サービスだけじゃなく日本の図書館の開館時間や人員の削減のその先もアメリカの図書館が実現してしまっているようだ。

教卓を挟み学生と向き合いながら図書館の情報サービスの授業をしていたりすると彼らの父兄がどう思っているかこっちは聞きたくなる。

(07.06.01)

寄せと退きの間で

甥とか姪とかあるいは孫連れじゃなく

ヨメと二人で祭り見物なんて久しぶり

八百余りも並んだ露店番も国際化していた。

神社の境内から路地へと埋め尽くすように

香具師が軒を列ねた雑踏を行き来したりすると
市内でも日本古来の独特な感触が甦るようだ。

郊外を散歩してて行き交う車に追い立てられ
あぜ道みたいなどころへ入り込んだりするが
かつて住みなれた田舎の手触りは見つけにくい。

遠くのものや近くの細かいものを眺めたり
いろんな道具が増えるのも楽しめていいけど
その時々標準となるフツーを見失いがちに。

家庭を営み仕事に出かけたり時には病で
入院したりしながら食や性や物への欲望を育む
バランスが狂ったり無意識の座が歪むからか。

格安の交換レンズを手に入れたのはいいが
老眼で遠近両用メガネを使いはじめたみたい
デジイチの足元が危なっかしく妙な写り具合だ。
(07.06.05)

データ消さなきゃ

なんだか老いて死ぬ理想の形みたいに
十年あまり使い慣れたPCがポックリ
ウンともスンとも動かなくなっちゃった。

さて処分する前に内部データを消す
ソフト処理作業が出来そうにも無いから
解体してハード的に壊すしかないみたい。

手持ちPCすべてネットに繋いでどれでも
作業データを双方向同期保存できて便利だったが
個人がらみのデータなどPCに残すべきじゃない。

かつて図書館に職を得て図書整理作業をやりはじめ
作った目録カードすべて担当係長の点検を受けたし
その目録ケースへの配列も他係員に組み込み点検された。

民間の金融機関などどこまでやるかみたいな
人名表記や読みそのほか取扱データの精査や
ペナルティまで作業に組み込まれているようだ。

社保庁の年金関連データ処理のシステム化で
どのようなチェック機能を組み込んだか

カード目録からコンピュータ目録作業になった
書誌データ作成現場では入力と精査のワンマン化だ。
(07.06.08)

気を自在に

昨夕は隣で郭公が鳴いているよとヨメに呼びだされて飛び立つ姿を撮ったつもり画像には屋根のテレビのアンテナがくつきり。

泳ぐ魚や羽ばたく鳥の見事な動きが分かるそんな一瞬を写すかわりみたいに庭を飛ぶ小さな昆虫を写そうとして失敗してばかり。

飛んでる距離にピントを合わせておいて捉えたつもりでもなかなかうまくいかず飛び回る虫の後追いに呼吸も乱れそう。

ある距離だとヨメと掌や足裏の気が通じるみたいに見かけた野鳥や昆虫の気を読むにはどうしたらいい iPodなんかしていると邪魔になってきてしまう。

何らかの型にはまってしまうと身心ともどもそこで居着いてしまっても動きも窮屈になるから気が滞ったみたいに交感できなくなってしまうのか。

托卵から孵った郭公の雛が養い親の卵を
目も見えないのに巣の外へはじき出して
居座り続けるような気働きもあるというのに。
(07.06.12)

五月雨通信

梅雨入り前の空模様に惑わされたように
手もとに読みさしが何冊もあるのに
つい図書館ではまった本を借りたり。

食卓を飾った山菜について果物が
おいしくなってきたように季節を
喉ごしの風景みたいに味わったり。

家を出てアパート住まいもつかのまに
うつがひどくてわが家に戻って半年余り
病院へ居場所を移した娘のメールの後味。

家の外へ出歩けなくなったおふくろは
どう食い気を消化するか持て余しきみ
どんな妄想も徘徊も人間だけがすること。

親や師が老への吸い込み口を開き
子や弟子が幼への吐き出し口へ導き
かろうじて当面の風通しが保てようか。

どんな端っこに見えようとも五臓六腑を
ひっくり返すみたいに入り口と出口を
見つけて保てないと真ん中が見えない。
(07.06.15)

昆虫採集もどき

いつの間にかたて混んだ家並の向こうに
北アルプスの稜線も隠れてしまい山並みの
どのあたりから日が出てくるか見えにくい。

日曜の朝早く近所の田植えをしていない
水田に飛来したサギを撮り逃がしついでに
写した日の出は毛勝三山のまだ北寄りから。

いつになく刈り込み過ぎたような庭にも
緑が茂ってこれまでの双眼鏡に持ち替え
小さな昆虫をデジカメのマクロレンズで。

小学生の頃の虫ピンで標本できなかったような
小さな蜘蛛の巣が朝露に輝いているファインダーの
ピント合わせがなんだかネット宇宙を覗くようだ。

幾つになっても田舎住まいのガキ時代から
ちつともかわり映えのしないようなことを
どこか隠し持ちつづけてきたみたいだが。

季節を巡って部屋に差しこむ陽射しが
伸び縮みするように見え隠れするから
定まらない影を追いつづけるしかない。
(07.06.19)

梅雨の出入り

梅雨入り前の夏日を洗い流すみたいに
降りしきる雨の中につち音が響き渡り
わが家の裏手でしつとり家が建ちはじめ。

くたびれてきた身体をほぐすように試み
続けてきた体操や呼吸法のおかげかどうか
治ったみたいいな肩や腰の痛みも疼きだしそう。

空調の効いた教室だとなんともないのに
蒸し暑い図書館だと身体が落ち着かず
じっくり読んでもいられないなんてことも。

でも新着棚の握り損ねたおにぎりみたいな
新書判の Web2.0 本につき合ったりしたら

『思考のための道具…異端の天才たちはコンピュータに何を求めた』や

『新ネットワーク思考―世界のしくみを読み解く』など

書架から取りだしてきて口直しできるのが図書館のいいところ。

学んだり教えたりは年金暮らしのようにかかず
手を上げたり寄ってきたり学生に質問されると
なんとも自分の喋りが届いてないのは毎度のこと。

(07.06.22)

〈漏れ〉履歴

オンライン注文の24時間対応のよきに慣れてしまったせいか毎日使う給湯器などとりわけ週末故障時の業者の対応がはがゆい。

ここんとこネット注文の発送漏れも重なったりしてるからいずこも同じか払い込んだ年金の記録漏れじゃないがわが人生最初の〈漏れ〉記憶は採用試験合格後になぜか採用予定者リストから落ちていたこと。

高卒初任給が他職種より高かっただけでなく採用時に1年東京で学ばせてくれるのも魅力で選んだ税務職の採用通知は待てど暮せど引揚げ母子家庭の高卒予定者に届かなかった。

おふくろと連れ立って金沢の国税局でもはや税務職新規採用はならぬと押し切られ一般職にたらい回しされてからも音沙汰無し。

見かねた担任教師が斡旋してくれたのに税理事務所先輩の鞆持ち修業ができず税理士への道も閉ざしたぷー太郎に採用案内が。

東海北陸の通勤不可能な財務局や税関など
見送ってばかりの勤務地に混じって地元の
国立大学の面接を受け働いた図書館も中退に。
(07.06.26)

梅雨の渡しで

加速する老化みたいなのにノートPCや
iPodのバッテリーの持ちが落ちてきた昨夕
帰った玄関で入院中の娘からとどいた生花の
シンプルでシャープなアレンジメントに見とれた。

ぶつ叩くような雨足が遠ざかるごとに

網戸の外が明るくなったり暗くなったり

年金受給直前のおじさんたちの耳に響くは

「六十四歳になっても必要としてくれて、まだ飯も食わせてくれるか？」

40年ほど前に1ヶ月あまり毎日聴いたビートルズのLP

「サージエント・ペーパーズ・ロンリー・ハーツ・クラブ・バンド」で

ポール・マッカートニーが尋ねていたようだったが。

梅雨の中休みみたいな午前のバス乗り継ぎで

待ち合わせにバス停近くの公園をぶらぶら歩けば

間を空けて散歩する老夫婦が近づいてきたり

携帯で話しつつづける女や酔っぱらったホームレスが

ときたまファインダーに入り込んでくる静けさ。

ときおりまばらな笹舟観光客を乗せて上り下りする

船頭よりもっと低く飛ぶツバメの姿は一枚も写せず。

(07.06.29)

からだは東にこころは西に

西隣の住宅建築騒音が一段落する間もなく
東隣からもべつ幕無しひっきりなしに響くが
せめて土・日ぐらいは休む配慮も皆無みたい。

在宅生活者にもまして勤め人の休日がうるさく
たまつたもんじゃなからうがあれこれ算段して
不完全燃焼の給湯器を取り換えるのは訳が違う。

越してきた当時はあたりまえに光っていた蛍が
消えたように隣近所の暮らしをそれぞれ保つような
つきあいネットワークも様変わりするしかなからう。

おそらくいろんな苦情が持ち込まれているから
工事現場近くの住宅に駐車中の車にダスト・カバ―を
かけてまわったりしているのだから過剰演技じゃないか。

よき親よき子どもによき上司によき部下から医者と患者まで
家庭や地域や職域だけじゃなくあらゆる場面の立ち回りが
どうにも被害者と加害者みたいな役回りになってしまいがち？

静止あるいは飛んできた物体を打ち返すのに肘の
抜きと手首の返しが大事などと散々言われたりするけど
それに必要な股関節の使い方気づくまでが面白い。
(07.07.03)

自在な回り道

辺りの宅地化が進み人も車も増えたのに
田んぼを買って家を建て住み着いた時から
狭く入り組んだ家庭事情は大して変わらない。

あちこち散歩や自転車散策をしてきたのに
梅雨の晴れ間の夕方の散歩ルートを外れてみて
はじめて周回万歩コースに行き当たったなんて。

人脈とか調べものとかのネットワークも
とかく固定したルートを頼りがちだけど
予想もしない手応えは違うルートから？

結婚とか就職のような人生の大ごとから
立ったり座ったり歩いたり曲がったりを
どうするかみたいな些細な気づきまでが
拡散するルートからもたらされるようだ。

トレーニングのメニューにも入ってない
簡単な気づきと身体使用で力が出るように
あさっての方角からの口利きで働いたり。

ひと処に住み着く慣れも違和もそのままに
柔らかく居着かない身心のネットワークが
崩れ果てたように主人のいない廃屋の姿が。
(07.07.10)

響き溢れ

今どきの空模様は左右されたみたい

にフットワークも湿りがちで隣県開催中の

「うめめ…ここは石川県の部屋 梅佳代写真展」を見逃しそう。

馴染はないけど写真界の「サラダ記念日」みたい

にながなんだか分かんないけど今が旬とは何か

撮り損なわないよう追っかける視線が面白くて。

むずかしいことだろうけどその時々自分の

根拠を見つけ自己模倣の落とし穴にはまらない

表現者はその生き難さゆえに見るものを動かす。

ピート・シガー・セッションバンド演奏で

ルート・ミュージックへの本卦還りを楽ませた

B・スプリングステインのダブリン・ライブ!!

還暦をすぎた大御所に成り果てることなく

過ぎ去りしを忘れずこの先を見つめて歌う

B・ディランはとて耳だけじゃ聴ききれない。

その時その場で行き交う人々それぞれの
いま・ここが響きあい共鳴するような拍手喝采から
群がる蛍が明滅を共に一斉に樹木を輝かせるまでに。
(07.07.13)

休日の街飾り

連休の台風の雨風だけじゃなく地震の揺れも立山連峰が吸い取ってくれたんじゃないかって新聞記事にあったのも領けそうな梅雨明け前の空。

たまたま昨日の朝十時過ぎは高速バスに揺られ午後の大きな余震も路線バスの中だったりして携帯のネットニュースを見るまで知らなかったのだが。

近所を巡る路線バスの間引き運行とは逆に高速バスの増便が繁盛ぶりを物語っていてその主役はやっぱりおばさん消費パワーかな。

地元の街中から隣県の街中まで直行できて千円払っておつりと五百円の商品券をくれたらおじさんだってJR離れしたくなるかもしれない。

久しぶりの美術館歩きと散歩で腹も減り

ビル食堂街のラーメン屋に入ったら映画で見た

「下妻物語」から出てきたような二人連れと隣り合わせ。

親に金を出させて今どきの中学生もやるじゃないか
彼女らはれっきとした社会人だよとヨメがこつそり
身銭を切り休日を飾ってパーフェクトなロリータファッション！
(07.07.17)

言葉の誘蛾灯

ぐずついた毎日に昨日のような夏空が
一枚加わっただけで身体も夏仕立てへと
切り替わっていく肌触りが際立つ月影。

一昨晚の西空の雲間に低く輝いた赤い
クレーターの位置を昨晚は見逃してしまい
玄関灯の壁に留まった小さな蛾の模様を写した。

巨大テント内に舞う蝶の群れを見上げたり
水田の誘蛾灯の下に張られた水に浮かんだ
大小さまざまな蛾の模様が夏の記憶を呼び寄せ。

風まかせでひらひらくえ定まらぬ蝶や
はたはたとあてど無さが頼りの蛾の軌跡が
蜘蛛の巣に搦め捕られた姿が夏の宿題だった。

学生が司書資格を取ったって就職のあてなんかない
図書館現場がらみの発言をネットで覗いたりすると
まだ実名も名乗れないような物言いのレベルなのか。

雲を掴むようなブログに代表されるネットの
書き込みがいつになったらその匿名性をかなぐり捨て
戦後を脱皮してほんとうの言葉を獲得するのか。
(07.07.20)

どんな線を辿って

台風5号を引き連れた梅雨明けの暑苦しさに
原油高騰に合わせたみたい温度計も上がりっぱなし
昼寝にも読書にも身が入らなかった昨日の昼下がりに。

縁側から階段でつないだ離れの書斎の引き戸が開き
見知らぬ男の子が顔をのぞかせお邪魔しますだなんて
先月退院した娘を訪ねてきた女友達の息子を招き入れ
本とパソコンしかないよというところとほんとはと返された。

気ままな昼下がりのひと時を分断されてしまったが
たまたま目についた青いLANケーブルに導かれるよう
辿ってきた男の子は里帰り中の孫と同じ小学1年生。

おそらく若い母親の大部分は子どももらから
ずたずたにされる時間をつぎはぎしながら
みずからをやりくりするしかないことだろう。

今どき親は子どもの時間を分断しないように
夫は妻の時間を分断しないようにだなんて
思いやりに先立つ家族の一体感はどこへやら。

一線を引き忘れて飲酒運転に走ったり
夏巡業をボイコットしたスポーツ選手や
選挙民が出した審判カードの色も分からず
アイムソーリーを繰り返す政治家の夏姿が。
(07.08.03)

夏の帽子探し

夏場に体内の他人に出会うみたい
に体調がおかしくなつて集中を欠きながら
放置した書類やコピー等の処分など。

〈溺れた友を見放し

塾に向かう中学生の切り換え

鮮やかに常願寺川の夏を越えて (78/7/22)〉

三十年ほど前にワープロで打ち出した
紙切れがいくつか出てきたりすると
遙か遠い自分の影が通り過ぎたようだ。

暮らしの関係の過疎化に縛られたままだと

アジアの目なし帽を被らされ身内をたらい回し

いつも履物を間違えてばかりで互いに出会えそうにない。

虚弱児のくせに頭の鉢だけは大きく

合うものが無くて帽子嫌いになったが

川釣りや山歩きやスキーには欠かせない。

裸足より履き心地の良い靴なんて
見たことも触ったこともないけどいつも
被っていたくなるような帽子はあった。
(07.08.07)

アブラカダブラ蟬

立秋も過ぎ陽射しも傾いてきたのに
暑さの峠がなかなか越えられない午後は
庭の桜や松の古木を響かせるように蟬が群がり
地中にひきこもっていた手記を蟬殻に残し
失ったコトバの深みに炎天下で共鳴するだけ。

ギブアップした草むしりをいいことに
伸び放題の雑草と庭木の共存はどうか
親子の殺し合いのような庭の蜘蛛の共食い。

昆虫採集するまでもなくガラクタみために
デジカメでPCに溜め込んで眺めたり
あれこれパッチワークみたいに並べ替え。

とりあえず年金生活者へ脱皮したのに
あいかわらずの落ち着きのなさというか
気のバランスの乱れでHVも慢性化するか？

ストレスを溜めるなと喋ってくれた
医者言葉聞き流すしかないような
陽が陰った頃合いに井戸水をたっぷり
庭に打ち水すれば束の間の涼が吹き抜け。(07.08.10)

寄せて引いて

連日の猛暑に山麓や海辺へサイクリングどころか朝夕の散歩にも出かけないで甲子園球児の熱戦を追いかけたりしている運動不足な今日この頃だが。

お盆の里帰りを背景に家庭内で身心のかかわりがずたずたにされ身体性が剥き出しになったような出来事や事件のニュースがいつそう目につくようだ。

戦後の暮らしの中で良きにつけ悪しきにつけ家庭や職域や地域に根付いていた枠組みや籬といったものも近代化とともに枯れ果てそれに変わるものが育たない。

世俗的な処世も薄まり金の力にも頼れないまま手ぶらで事にあたらなげやならないとしたら相手と実力行使ができない距離に遠ざかるか近づくしかない。

強うそうなカマキリを見つけては闘わせたりしたかつての夏休みの惨劇が季節を選ばず庭を飛び越し解体した茶の間を舞台に見なげやなくなるとは。

昆虫が擬態で目眩しするような「公安9課」の活躍が
面白いアニメのボックスセットを見返したりすると
残暑の彼方へ逃げ水のように、ものあわれが消える。
(07.08.14)

内なる沈黙宇宙

朝からの雷鳴まじりの雨上りを見計らい

「人体の不思議展」@富山市民プラザに出かけ
ほどほどの人混みで1時間を超える沈黙の遊泳！

スポ少バドミントンのブロック大会があつた

夏休み最後の蒸し風呂みたいな体育館での
火照った身体が跡形もなくクールダウンされそう。

「本物」を「プラストミック」処理したという

人体標本の展示を見ているうちに身体内に隠された
植物性と動物性が顕にされたみたいな無言の迫力が。

春からバドミントンをはじめた1年坊主が

とにかく真つ直ぐ打ち返すクリヤーだけで
シングルスゲームを二つ勝ったなんてことも。

名前も人相もない人体の予期しない美しさから

さまざまな関係を呼吸しつつある身体の生々しさまで
日々置き去りにするようにしか毎日が送られないとしたら。

この夏に注意して見たスポ少バド大会や交流戦だが
大部分を占める子どもらの上達ぶりそのものの低下は
長寿社会になっても成熟できない老人の鏡じゃないのか。
(07.08.28)

夏の終わりの

もう見ることもないだろうと思っていた

小1のマー君や妹のミーちゃんが僕ら夫婦を
すっかり爺ちゃん&婆ちゃん扱いしてくれた
月初めの暑さが嘘みたいに遠ざかったようだ。

ちぎれてしまった家族関係を血のつながりで

補おうとするかのように何らかの異常性が加担し

いま・ここを歪めてしか了解できない狂った関係づけを
強要された心の不眠に向きあう術とはいったいどのようなもの。

婚姻でどの姓を名乗ろうが夫婦別姓だろうがお好み次第でも

相容れないときは共倒れにならないようそれぞれの日常を営むしかない
家族や血筋がもつれこんがらがる大事とはどのようなものか。

生きてゆくために 何をすればいいかなんて

ぼくの父さんだって きつとわかっちゃいないのに

さんざん欲ぼって ぼくがたどりついたのは

どっかで聞いたような、サルマネのコンセプト

十年前にスガシカオがヒットチャートをかけぬけはじめ

朝早い通勤・通学バスに並んで座った頃の高校生の娘と父の

ひそひそ話がが再現されたみたいに響いた季節の変わり目。(07.08.31)

つまみおろす

夏場の書斎の除湿を頼むポンコツクーラーもおしゃかになりそうだったけどよく食べて眠りなんとか独りで動いて夏を越したおふくろだが珍しく大根をおろしはじめてすぐに代われと言う。

手で握りしめた力でこするよりも肩を落とし中指と薬指とおやゆびではさむようにして骨盤をゆするように大根を動かせばいいのに。

中教審が中学校の体育で武道やダンスを必修になんてニュースに鼻を摘まれた戦後教育の場はますます風通しが悪くなる一方じゃなかろうか。

中学時代に使った竹刀や木刀を後生大事に時おり振ったりしていているけど刀を抜いで元の鞘にどうやって収めるか予想もできない。

小・中学生のわが子にスポーツをさせたいあまり親が面倒を見過ぎて駄目になったのを見てきたからいまだに教え過ぎる親やコーチの姿が気になってしまう。

夏の定番のひとつのサザンだけど録画しておいた
桑田佳祐NHKスペシャルライブを観たりすると
彼の歌が人生で出会ったあれもこれも葬り去るように響く。
(07.09.07)

夏枯れに雨が

見えない老境を綴りつつあるおふくろと
やがてその予備軍みたいな夫婦が一つ屋根で
ひっそり新聞を読んだりテレビで映画を観たり。

夜毎の雨が残暑をふき取ってしまいに
剥き出しの肌寒さに震えそうになって
目覚めたりしたところで秋晴れの朝が。

家庭の幸福だとか不幸だとか言えない
倫理がらみの季節はとつくに過ぎてしまつて
家族の問題は生涯から瞬間にすり替えられようとも、

幼少年期から青春期そして青年期へと
子どもから親へ問題の橋を架け渡して
なんとか身体だけでも渡らせるしかない。

社会的にか家族的にか個人的にか
三つどもえのどこかに足がかりを求める
トレードオフの危なっかしさも幸不幸に。

とにかく焦らず騒がず知らん振りでも
裏で考えながら大筋を踏み外さないよう
手枷足枷ならぬ身体の矢印を生きる方向へ。
(07.09.11)

にもかかわらず

ここ連日お向かいさんの住宅新築に伴う
井戸掘りの地響きが鳴り止みそうになく
平穩そうな上つ面の下で伏流する混とんが
あちこちで噴出しながら交錯する軋みのよう。

四十七年前に国内の反対デモを無視して日米
安保条約の改定を断行したあげくに辞職した
首相の孫もやはり日米関係の維持が間接的な
原因の一つとなつての突然の辞意表明だったか。

戦後を歩んできたそれぞれの歴史を忘れようにも
近隣だけじゃなく発展途上国の姿にほかならぬ
みずからが歩き辿つた道の眺めが隠されているのに。

名手イチローがまさかの落球をしたり
オシム・ジャパンが強豪スイス相手に逆転勝ち
それにしてもラグビーワールドカップで日本が
フィジーに31-35で負けた試合がとても残念。

かつて娘がそして孫らが玩具にしたりしていた
納戸の中古ピアノが縁側から秋空に吊り上げられ
リモコンクレーントラックで運び出された空白。(07.09.14)

休み明け

取り立てて何をやったわけでもないのに
気の通りが良くないような重苦しい眺めに
敬老の日三連休の猛暑疲れが残ったかな。

高齢になったおふくろが下に降りた二階の
居住提供も10ヶ月足らずで空き部屋になり
痛んだ畳みや雨に濡れた障子のシミが臭う。

さまざまな生活意識に病が加わったりして
ひとつ屋根の下でそれぞれの日常性が崩れ
共倒れになりそうになる危うさは尽きない。

派閥を束ねた元官房長官と残った幹事長で
自民党総裁の椅子を争う衆目の集め方だが
本気でやるなら数を頼らずひとりでこつそりと。

退屈で欠伸が愉しい日常は長続きせず
人それぞれの思案で隔たる日々が重なり
思い描いた普通の暮らしからの逸脱ばかり。

田舎住まいの土間からむしろやごぎへ
そして畳へと足裏の感触がふと辿らせる
日本家屋や和室の記憶が交差する向こうへ。
(07.09.18)

ちくしょう。

何かをやるうとしたりそうしたくなかったり
いずれの場合にも共通する大事なことってのは
なんの構えもなくとりあえずゆるんでいること。

学んできたことややってきたことを無きものに
ひたすらみずからの低さから生じるあそびから
動きを読み書き算盤できれば申し分ないのだが。

だれしも良いところから悪いところまであり
自分をもっともどうしようもないところから
とりあえずいつも動き始めるしかなからう。

スワローズの古田監督が辞任記者会見で
涙で声をつまらせながら漏らした一言の
支えようのない悔しがりようがテレビに。

声にならない想いのありったけを体内に
分散させたままどこにも支点をつくらず
吐き出すような動きそのものがみなぎる。

解き放たれた秋のアンテナのように
打ちっ放しの空をどこまでも高く遠く
消えゆくままに届けばそれでいいのだ。
(07.09.21)

老いつ追われつ

列島をワイパーした秋雨前線で
暑かった九月とともにはかない
時間講師の夏休みも終わった。

なにかと記録づくめで評価されがち
ペナントレースを制覇した日ハム野球の
細かな攻守のバランスは数字から見えない。

近くにあるようでよく分からない死と
同じようにどれだけ近づいたようでも
老いるということもよく分からないが、

投手やボクサーや舞踏家だけじゃなく
執刀にとりかかる外科医や演奏をはじめ
音楽家などの構える姿勢が似かよって見え。

気づきが遅れてしかやってこないことに
気づくことが老いのはじまりだとしたら
追いつけない動きの遅れを取り戻せないまま、

なお衰えながら動ける姿勢を導けるよう
わが四肢と体躯の操作法を手探ししながら
しかとつかまえにくい体感だけが頼りか。
(07.10.02)

場違いな

涼しくなってきたのにあわせたみたい
サイクリング車を引つ張り出す合間に
庭の草をむしったりしても腰は痛まないか。

後期授業のはじまりに、出頭するの5回目
だというのに、場違いな感じは消えそうにないが
毎年違う新入生との出会いに引つ張られてきた。

村の用水や川掃除から草刈りや雪かきなど
共同作業に父親代わりで仕方なく引つ張り
出されたりしていた頃の再演でもなかりうに。

体力は衰えても箒やスコップを今のほうが
巧く使えるだろうし腰痛や腱鞘炎にならない
身のこなしができるようになったかもしれない。

嫌な草むしりも股関節を畳むようにゴミ袋を
股の間に両手の中指と薬指と親指に挟まった
庭の雑草を掴み取るようにやるといいみたい。

子は親を裏切り親となって子に裏切られてこそ
大人として一人前になる師弟関係に気づけようが

何ごとも下手は下手だからこそその上達具合を
それなりに味わうことができようというもの。
(07.10.05)

住み慣れて

先月九月がとにかく暑かったせいで
平年並の十月が妙によそよそしいが
金木犀がゆく先々で懐かしく匂い立つ。

寒さに向かうご老体をいたわるみたいに
風呂場に暖房・乾燥機を取り付けたり
くたびれいたんだ畳の入れ替えなども。

家の外装はほぼ全面手直ししてきかた
とても土台や内装までは手がまわりかね
生活用水や水まわりの修繕と維持だけだね。

入れ替える畳の縁などを見た畳職人は
二間とおして壁や床の間や天井の飾り縁などに
合わせた三十数年前の職人仕事に感心しきり。

抜けそうな床板みたいに身心のバランスを
崩したり崩されたりしがちな今日この頃だから
住む身体と頭のおそびが愉しめる場を保てないと。

結婚する前に17回ばかり引っ越したヨメも
おふくろも大きな患いもなくやってこれたのも
引っ越し住み着いた土地と相性が良かったから。
(07.10.12)

気配を細かに呼吸する

これまで羽蟻を見かけたことはなかったのに
床下を調べてもらったたらやっぱり白蟻被害に
当たってしまったって業者に退治してもらうしかない。

田舎屋住まいの中学生の頃だったけど

初夏に開け放った座敷でボンヤリしてたら
鴨居辺りから雲霞のように湧き出す気配が。

どこか畳を替えたくなってきたりするってのは
暮らしを営んでいる身体のなせる技みたい
に家のどこかに臭うような妙な気配を感受するから。

数年前に体調不良で仕事を辞めた頃だと
身体のことだけでなく家屋や庭木の状態にも
どことなく気が働かない空洞にはまっていたかな。

中学のクラブ活動の剣道の顧問はいつもいつも
練習の前後に胡座を組んだお腹のところ
で重ねた両掌の親指を付かず離れず数分の瞑想をさせた。

確か七段の先生だったけど教えてもらった
肝心の剣道の技はちっとも覚えていないのに
あの時の呼吸の感触だけはいまだに忘れない。
(07.10.16)

身の置き所々

珍しくスーツに革靴の昨日の出がけに着替えた身体の肌触りを溶かし込む

刷毛で撫でたような雨が降ったりして。

季節の陽射しと車両やバスの運行方向にあわせて左右どの窓側に座つたりするかその時々、の身体まかせの動きがほどよい。

窓側か壁側かどちらでもない真ん中辺りの前よりか後ろよりあるいはどっちつかずで教卓に遠くも近くもない座席に集中もせず。

座席指定などしていないコンピュータ教室は入学年度によって新入生の散らばりぐあいが違うだけでなく向き合い具合もその都度違う。

名前を呼ぶと返事が返ってくる出席確認をログインしている履修生の集約画面でやれたり便利かもしれないが気合いの通わぬ味気なさも。

ひとそれぞれ思いのまま何処へ向かうにしろ
いつも走り続けられるとはかぎらない走行車線や
追い越し車線を見いだす手足は身心を追い越せない。
(07.10.19)

不断の仕事着

東に聳える毛勝三山の谷筋が白く
真新しく香る畳部屋を歩く素足が
シャキシヤキと新雪を歩くようだ。

先週末から畳二十枚の入れ替えに
庭木の剪定と二つの職人仕事で
くたびれかかったわが家が息づく。

床板も張り直して畳がふわつかない
日常に戻れたがシロアリ退治作業の
残渣が臭わなかったらもつといいのに。

タイル張りや畳の上だけじゃなく
莫産や蓆の上に布団をひいたりして
ベッドではわからない寝心地が身体に。

小説の創作と翻訳をやり通している
人気作家の両輪を動かしながら続けるのが
とにかく走り続けることの維持みたい。

どのような乳胎児期を通り抜けたか
掘り起こせない思春期を過ぎてからだ
人それぞれ家事の着こなしが暮らしの秩序に。
(07.10.23)

出かけ帰りがけ

張り替えた障子の影が美しい

昨日までの秋日和はどこへやら

午後から雷雨になつたりすると

肩が痛んだり体調にまで響きそう。

庭師が入つて雑草もなくなると

残り少なくなつた苔が濡れても

乾いても美しく映えるようだ。

もうおふくろが庭の草むしりを

やってたころのような春夏秋冬

緑のじゅうたんにはもどらない。

出がけに途中下車して街なかや

公園をぶらぶらしたり目についた

苔模様をデジカメで写してみたり。

まめに庭の草むしりをやらなきや

庭木の下をうめつくす雑草の影で

苔の感触もまだらに禿げてしまう。

帰りがけにヨメと約束していた
寿司屋の前のバス停を降り損ね
家に着いてから夕べの歩き直し。
(07.10.26)

体内から身振り手振り

インドアとアウトドア日和の様変わりようで
書架を移したまま床や踊り場に放つたらかした
本の散らかり具合をデジカメで写してみたり。

日曜の河川敷の秋景色を土手から眺めながら
サイクリングを愉しみついでに水墨美術館で
思いがけない北斎の版画や絵本が眺められたり
広い庭の一角で舞楽の（たぶん）左舞に出会えた。

それにしても廃線になって久しいのに
射水線の終着駅だった「新富山」よりも
停留所名を「水墨美術館前」にして宣伝したら。

曇り空の窓際近くにびっくりするくらい
シジュウカラやヒヨドリなどもやってきて
枝から枝へ直線的な動きに見とれることも。

（水は／たくさんに／割れてるんだ。）

（冷たさや／濃さや／動く向きの違う／塊がある。）

（塊に乗って／滑るんだよ。）

(お前は／力も／ヒレも／ないんだから。)

『五十嵐大介 『海獣の子供2』』

胎内記憶を呼び覚ますような身動きから始めたい。

(07.10.30)

思わずできたら

バドミントンのダブルス作戦のひとつ
魔女狩り。なんてのはアタマ言葉だが
身に覚えのある人は頷くこともあるかな
あの痛みを、魔女の一撃。と言うなんて
腑に落ちるカラダ言葉のひとつみたい。

なんで泳げもしないのスキューバダイビングを
やったり免許もなく持つてもない車の運転など
身に覚えのないことが夢見られるのはなぜだろう。

そりゃ虚弱児でビンボーだったからだか
ひよつとして言葉は心身のどちらかといえど
身体寄りの行為だからできもしない夢を見るのか。

勝ちたかったり負けたくない言葉で尻を叩く
ハードトレーニングの内幕は閉ざされていても
亀さん一家のボクシング顛末として見え隠れ。

誰を相手に何をどのように話の成り立つ場を
探すみたいに四六時中いったいどれだけの
ケータイのボタンがプチプチ、押されているか。

ちつとも分からなくても気でなぞれたり
体感できて生じた感触が確かな動きとなつて
心身が共鳴する言葉がよどみなく溢れればいい。
(07.11.02)

転んでも怪我しない杖

まだ冷え込むというほどではないがめつきり寒くなつて何かとおふくろの動きも鈍りがちドアを手前に引いて仰向けに尻餅をついたり。

ぶつかる前に人形のガラスケースなど

怪我しないよう片づけたりしているのだが危なくない転び方や受け身もできないと。

授業の準備や本番に使い込んでしがない

時間講師の秘書もどきノートPCが突然コケて困っていたらお袋のサポートが。

息子が母親を養うのが当たり前になって

いつもは生活費の心配などかけらもないのに壊れたら買うしかないと気前のいいこと。

夏に給湯器が壊れたときもポケットマネーを

出してくれたついでに風呂場の暖房／乾燥も付け足し冬場の年寄り向けにしたら入浴を面倒がらないように。

大正生まれの気質なのかどうかわからないが
とかくあれこれ思い巡らしてでき損なう前に
五感を廻らし身体で考えないと知恵は働かない。
(07.11.14)

寒さ早すぎ

庭の雪吊りがいつもより早かったのを見越したみたいに先週末から寒くなつてせつかく持ち直した体調も戸惑つたかな。

山小屋経営者からの伝え聞きによれば今年はがめ虫が家の中にまで入り込んでいないようで大雪にならないってことだ。

部屋を温かくして家族で囲む鍋料理などいつそうおいしくくれる新酒のワインを子連れで届けてくれた元同僚の元気な笑顔。

引きこもりじみたりタイヤ後の成り行き任せに思いがけない風穴が開いたように通り過ぎる暑さ寒さはどこからでもやってくるようだ。

壊れたノートPCの修理だがメーカーに送ったらべらぼうな費用を取られるということで近所の家電販売店で五分の一の費用でやってもらったのだが……。

もう自力で外出できないおふくろの眼鏡を
掃除がてらにヨメが持参して新調を頼んだら
ピッタリ合うものをと店員がわが家を探し訪ね。
(07.11.20)

日溜まり散歩

休日の子供らの朝練につきあえるような
体調を確かめるみたいに朝日の当たりが
よさそうな道を辿って寒々とした体育館へ。

ストレッチのほか準備運動を終えた
低学年の男の子や女の子が手の冷たさを
競うように握手したり頬を触ったりしてくる。

力んだりひねったり床を蹴ったりしないで
膝を抜くようなステップを試みさせたり
両腕交差半回転などで遊びながら温まる。

幼いうちから筋力や敏捷性に頼らない
自分の身体とのつきあい方を学べたら
少子高齢化社会が生きやすくなるかも。

わが家の白蟻被害対応から床板や畳に
障子の張り替えまでを何とかできて
覚え歪んだ身のほど知らずはどうなる。

家族が長生きしてくれたりしてはじめて
人は変わりうるものだと思われよう
まだまだよくわからない老人は侮れない。
(07.11.23)

晩秋の河川敷

寒気が去って好天に恵まれた三連休は

スポ少バドミントンの子どもらの練習や

校下のバドミントン大会の審判などの三日間。

今年は試合数が少なくて昼前に体育館を出て

またとないサイクリング日和に近くの川原まで

土手沿いの道はガソリンの値上がりもどこ吹く風。

子育て真っ最中か卒業してしまつたような

夫婦らが寛ぎ戯れる芝生の広がりが高く低く

カラスが魚群のように飛び回つたかと思うと

近くの電線に嘴を揃えてびっしり並んだり

青空に映える晩秋の紅葉の行楽団体のよう。

聳え立つ連峰の麓の紅葉から真つ白な稜線へ

伸び広がるパノラマのグラデーションを背景に

風を切りモトクロス親子のバイク音が川面に届く。

家事と育児でつなぎ合わされたぬくもりが

見えないパッチワークのように河川敷で遊ぶ

あちこちの人たちの動きをあたたく彩る。

(07.11.27)

十二月のぬくもり

やり残したままの片づけだけじゃなく
掃除などもいつもより時間をかけたり
そんな暇つぶしも余儀ないお天気続き。

いつの間にやら柱や鴨居や敷居に微妙な
反りがきてふすまが開け閉めしにくかったり
どうしようもない隙間が世間の風通し模様。

ふってわいたような穏やかな日和に街を抜け
師走のキャンパスに出かけ午後の2コマが終った
ところで3階の教室の窓の外はすっかり夕暮れ。

今日一日を何もなかったように燃やし尽くし
西空の端っこに気づいて眺める誰彼問わずに
すべて受けとめた重みで傾き消えゆく夕日が。

沈みきった後に残ったぬくもりを懐に
三々五々教室を後にする人影が薄れ行き
とっぷり暮れた街路樹を電飾が彩りはじめ。

慣れない眼鏡に掛け替えたような気恥ずかしさ
散り散りの煩惱を敷き詰めたような街路でも
なにが恋しくて故郷の道みたいに行きつ戻りつ。
(07.12.07)

他人の振り見て

寒くなつてくると参加者も底を突きがち
校下のバドミントン練習日に初心者が
何人も現れたが今度はどれだけ続くかな。

おそらく隣の団地に家を建て住み着き
子どもらが小学校に通うようになった
若いお父さんやお母さんらが誘いあつてか。

どこにでもいる経験者に後れを取りながら
基本技やラリーの組み立て方をゲームで
愉しめるようになるまで続けばいいのに。

人それぞれ心身の使い方身につけた
座が固くて角張っていたり柔らかかくて
丸かったりさまざまに形作られてしまう。

形がさまざまなのは仕方がないとしても
真ん中にあるべき芯そのものが縁の方へ
偏ったままだと練習が愉しくなくなりがち。

男と女のかかわり合いにしたってどんなに
重なり合わないような形をしていようとも
芯のありどころがよければ相性は保てそう。
(07.12.14)

潤い肩肘張らず

朝に布団を抜け出すのがだんだん遅くなったり
デジカメ散歩もさっぱりで家の中をうろろうろ
持て余し気味の暇を充たす『ブレラン』最終版！

ヨメはDVDと同時に宅配でどつきり届いた
叔父さんからの野菜にこれで天気の良い日々の
買い物も当分楽になったようで嬉しそうだったが
LDでも版を違えて何回も見てきたSF映画の
どこがそんなにといった様子で先に寝てしまった。

原作となった小説の他にもディック作品を探し
今はないサンリオ文庫など買いあさって読んだが
何が書いてあったかすっかり忘れたようでも
とりわけ『ヴァリス』には共振した読後感が。

そういえば村上春樹『羊をめぐる冒険』でも
似たような読み方を愉しめたような気がするが
生活視線の余白を少なくしてみたみたいに軽くても
身体を浮遊させてくれるような濃さがとっておき。

幼くして虚弱に出会ったように現在の身体性に
共鳴してくるような図柄に時おり出会えたらいい。
(07.12.18)

ほどほどに

冬場に向かう北陸のうんざりするような空模様には促されたみたいなのに雪囲いを済ましてついでに排水溝のヘドロや根っこの除去も。

コンピュータ教室での担当授業で履修外の女子学生が頼み込んでくるPC利用を許すと僕の話が聞こえにくいと履修生から苦情が。

何事も流れに逆らわず滞らせないようなプラスマイナスゼロとなる立ちどころを探り当て続ける偶有性の日々に浮き沈む。

いいこと悪いことをほどほどに縫い合わせて雨の街路を彩る発光ダイオードの列に今日も百人の自殺者数が紛れ込む日本の歳末だが。

自分の銀行口座の預金金利が十七年前の率に迫っていることをヨメから教えられたってどうせ預ける金もないからどうでもいいこと。

無知じゃない生きて分からぬこともあり
なるようにしかならないと朝のラジオから
若い娘が歌う植木節がこぼれ落ちてきた。
(07.12.21)

師走の脱皮

気分はもう冬休みなのに体調がふらついたり
街中に出かけあちこち出入りする寒暖の差が
どうにも身体に良くないようで困ったもんだ。

滞りがちな台所の排水パイプをすつきり
抜けるよう住まいのメンテナンスなど
どうにか片づけらなげらなんとか持ち直す。

歳をとるほどに心身ともに年相応とは
どういふことか分からなくなるようだが
人それぞれ全うすべき寿命があるようでも
祖父の老化現象は急カーブを描いて逝ったな。

自力で美容院へ行けなくなったおふくろは
ヨメに髪を整えてもらったらずぐ風呂を
使えるよう暖房や湯の準備をしていた息子の
目の前であっさり下着まで脱いでしまったたり。

テレビで見かけた伊勢エビの脱皮の瞬間を
録画するみたいに焼きついてしまった母の姿に
細くて襟首は剃れないと言うヨメの言葉が重なる。

(07.12.25)

歳末の形見

今年の好天気を締めくくったみいな昨日は
午前いつぱいかけて2階和室の襖がなんとか
閉まるよう調整したり大掃除を済ませたばかり。

午後の日差しに輝く雪山のデジカメ散策へと
自転車を繰り出した通り道の傍らで家の窓を
磨いたりしている年寄りを見かけもしたが。

三十数年前に新築して引越してきた二階を白寿に
手の届きそうだった祖父にせまがれおんぶして見せたり
ある晩には売り払った田舎屋に帰りたいと迫られもした。

壁の煤払いをされていてヨメが指さした柱に
二階の畳をめくって床板には見つからなかった
白蟻の痕跡らしきものが残っていてがっかり。

床下と一階の駆除作業だけでよかったかどうか
二階も畳を入れ替え障子を張り替え床の間には
祖父さんが遺していった掛け軸や骨董など置こうか。

両肩が凝らず緩んだ抜けのいい心地よさ
あれこれ作業や片づけ物をするする身体が
滞ったり詰まったりせずにはかどるようだ。
(07.12.28)

サブライズ

大晦日めがけたように降り積もった
雪明かりの夜回り当番を隣近所とこなし
桑田佳祐ライブ中継を見ながら新年に。

もう交通弱者みたいなおふくろに習い
初詣を見送り今年も届けられた賀状に
書きつけられた数少ない文面からは
少子高齢化社会の暮らし難さが滲む。

女つ気無しだった甥が昨年末に二人で
訪れたサブライズがあつたが経済的に
自立したカップルならではの難しさも。

善いこと悪いこといつどこでどうなるか
とりあえず先人の暮らしから受け継いだ
やり方を頼りに異常性が加担した現実
に右往左往しながら何とか向き合えても
自らの無力にどうにもならず立ち往生。

ゆきあたりあばったり偶然と必然が
やりくりされるみたいな心身を座に
ほどけるような力が湧き上がらないか。

(08.01.01)
(10.10.01)

飲食の手触り

どうやら縁談がまとまりそうな甥っ子や
雑煮が食べたいといってきた養生娘も加わり
恒例の姉夫婦との新年顔合わせで飲んで食べて。

食べるのが楽しみみたいなおふくろだが
時としてむちゃ食いをしたり片づけ食いに
なんだか無意識の満たされなさが見え隠れ。

歳とともに身体が欲しがらなくなるのか
食が細くなつたらなつたなりにいろんな
食べ方で老いる双六の賽の目が振られる。

年末年始のテレビ特番視聴の合間を縫って
読みながら聴いたのはルーツミュージック
聴くことは遠隔化する触覚の心地よさか。

おせちの中に入っていた鮭の粕漬けを
板昆布で巻いた鮭やヨメが作ってくれた
大根おろし入りのとろろが忘れられない。

かすかに土と太陽が匂う格安ワインや

チーズに誘われたりする食欲は心身の奥へ
内向する旅の道連れみたいに果てしない。
(08.01.04)

次から次へ

静に部屋で寛いでいたりしている時など
ふと物音に気づいて老母の部屋を覗いたら
転んでいたなんてことがちょいちょいある。

足首を捻挫したり持病の膝痛が出てた
娘が階段で転んで滑り落ち尻打ち痛く
尾てい骨がひび割れたなんて電話も。

老化や心身の異常性を生きなきゃならない
日常生活を取り巻いてくる落ちこぼれ感を
どう開かれた生活実感へ橋渡せられようか。

それぞれの暮らしで培ってきた免疫力は
おのおのの身体内で働きつつあるだろうが
自然治癒力は心身と環境との形成作用から。

昨秋に時間講師継続打診がなかったりして
後期の司書課程授業を済ませたら解放されるか
見込みが外れたみたいで来年度も続けなきゃ。

志望しても就職が見込めない現状とはいえ

司書課程を選択していない学生も働きたくなくなる
図書館環境がキャンパス内に培われていないとね。

(08.01.11)

毒も皿も

いちだんと寒くなってきた家族で
囲む鍋物がますますおいしく気の
流れに身体を緩めるような暖かさ。

正月休みにでも読もうかと二人で
目論んだ宮部小説を図書館から借り
ヨメが上巻を読む間に下巻を読んだ。

人様々に生き延びることはそれぞれが
なくてはならない型に染め上げられた
毒までも呼吸しなきゃならないようだ。

善悪二元論だけじゃ人様の善し悪し
すべてを包み込んでなお余りある
やさしさなんてものがはみ出しそう。

バラされたNHK記者やディレクターの
インサイダー株式取引容疑で得たらしい
はした金なんて不祥事の日常化そのもの。

役得が当たり前みたいに唐変木がのさばり

どれだけインチキでつぎはぎされようが
どこか生きるための切なさに裏打ちされて。
(08.01.22)

背と裏腹

冬場の雨があたりまえみたいになって
外出時に洋傘を手放せない日が多いが
吹雪いてきたりするとビニール傘かな。

安くて壊れそうな軸を風に傾けながら
寒気が郊外の家並を包み隠しはじめ
冬景色に溶け込むような歩行の行き先。

透明な円窓が四つも開いた洋傘で
小雪をかき分けキャンパスに消えた
女子学生はどんな冬景色を見越して。

親は子どもが見つめた自分の背中が
どうなっていたかまったく分からず
先生の背中は生徒にしか見えなからう。

授業の最後を期末筆記で締めくくる
冬場のコンピュータ教室は乾燥しすぎ
三階の窓越しに積もる屋根雪が時を計る。

いろんな足跡も融雪放水にかき消され

水たまりを避けて歩くようにしながら
走り去る車の水しぶきも傘で防がないと。
(08.01.25)

待ち受け

ここ数年は決まったようにこの時期になると毎日の郵便配達で学生が出し遅れたレポートや演習課題がちゃんと届くかどうか気になってくる。

最終授業時間内にやることにしている期末筆記の提出に合わせた締め切りに間に合わないというか忘れた学生には郵送締め切りを設けわが家で待機に。

受けた図書館学の授業の中で特に難しかったとかいろいろ発見できわくわくするほど面白かったとか期末筆記に書きつけられた感想すべてを飲み込んで。

料金未納不足で行きつ戻りつしたのもあったり成績票の提出締め切りに間に合うように届いたが遅れた分だけしっかりした出来栄えだったりして。

待つ身に発送漏れになっていた予約本が速達で届けられ吉本氏の母校・東工大での集中講義「芸術言語論」を集成した『日本語のゆくえ』を読みはじめその凄さが。

生涯をかけて追求しているモチーフの一步先を

考え抜いて準備したことを学生に提示し続ける
姿勢の豊かさに聴講生ならずとも元気をもらえる。
(08.02.01)

雪かき要らず

降っては溶けてしまう冬日が続くようだと
屋根雪下ろしや雪かき仕事の身体使いを
忘れてしまいそうな感触の今日この頃。

Google Earth 目線を動かして数十メートルの高さから
人気がない町内を見下ろせるようになってその昔
生徒の登校前に雪かきした通学路を辿ってみたり。

今どきの雪かき仕事はどこかで誰かが
どのように成し遂げつつあるのか見とどける
人それぞれの立場で息の長い自問自答の持続が。

時おり食い物中毒みたいなことをやらかし
自ら掛け声をかけながら食後の洗い物など
僕らの分まで家事を手伝おうとする以外は、

ご飯や風呂時や掃除その他で覗くたび
暮れに新調した座椅子で温もったまま
じっとして老いたる猫みたいなたまの姿が。

下馬評を覆した逆転で決着がついた昨日の

スーパーボウルテレビ中継でカウチポテトに
はまりこんだ僕ら夫婦も似たようなものか。
(08.02.05)

ちり紙シュート

雪が降り止んだ町内のゴミ出しで東の
朝空に輝く雲を帰りがけにデジカメで
撮ろうとしたときすでに朝日にかき消され。

後期担当科目の採点表や平成20年度の
担当授業科目書類を出し終えてしまえば
時間講師にもそれなりの春休み気分が。

2007年吉本著作リストのデータから
昨年度の吉本年譜事項を拾いだしても
生涯現役で考え書き貫く姿勢が垣間見え。

とにかく心身でやろうとする何ごとであれ
いかなる段階でも基本が基本でなくなる型を
見つけては忘れるという動きがともなわないと。

この世に生まれ家をもうけ親や子として地域で
つながりを持つことはどこかで罵りあったり
毒気に当てられたり吐き出したり畏怖することに。

部屋で過ごしながら紙くずや鼻紙など立って

遠ざけたクズカゴへの投げ入れは膝を抜き
手首の立て方と柔らかい角度が決め手。

(08.02.08)

雪まだら

今シーズンは滑る体感から遠いようで
晴れてきた連休中日はスキー場のある
町の体育館でバドミントンの大会に参加。

寒い体育館内でこわばりそうな身体を
体幹を揺るように手足をぶらぶらさせたり
iPodに仕込んだ楽曲のシャッフルしながら暖まる。

寒くなるほどに甘味が増す冬野菜は
齧ったり噛んで食べて初めてわかるように
技ある人が漲らせる存在力に居合わせないと。

無心を楽しめるスポーツの良さを超え
日常の身体使いだけでは気づき難い
その人なりの体感に切り替わる難関が。

ノーマルからカービングにスキー板を
乗にかえた身体が覚えた快感みたいに
五体で技を身につけ使いこなす練習を。

行き帰りに乗っけてもらった車窓から

路の臺が根を張り芽吹きはじめた匂いが
漂ってきそうな季節感を誰が知るだろう。
(08.02.12)

「もの」と「こと」のあわれ

立春過ぎから寒い日が続くようで
明け方に降り積もった雪だけが
日の移ろいを影絵のように流す。

いつの間にか通り過ぎた十代から
二十代への曲がり角がどうだったか
過ぎて気づく男道と女道の行き帰り。

行き交う両端は方や「もの」としたら
その一方で「こと」としてかろうじて
現れるような対のかかわりだろうか。

夜間教室での授業が街頭デモになったり
女とのデートの続きで家庭に入り込んだり
日々の賃仕事も長続きしたようでお開きに。

買えないLPが聴けたジャズ喫茶通いで
数あるピアノトリオの一つでしかなかった
アーマッド・ジャマルを今になって聴き漁る。

聞き漏らしたり見損なっていたものなど

いっどこで姿を現したり聞こえたりするか

DVDで観た「アヒルと鴨のコインロッカー」みたいに。

(08.02.15)

日々の渡し

日曜日には〇センチを超える積雪があつても本格的な冬にはほど遠い季節感が際立たせる様変わりした隣近所や職域での人との関わり。

公界か苦界かとにかく祖父さんの口癖だつたまわりとの人それぞれの関わりをとりもつた身過ぎ世過ぎを彩る暮らしの歳時記はどこへ。

別れられない核家族として面突き合わせる狭苦しさが携帯電話で息抜きするみたいに生き死に関わるやり取りに及ぶことも。

学問に縁遠い場で呼吸しているみたいなの斜陽の書店員と同じように図書館員だって現実の波をかぶるから総合性だけは手放せまい。

吸ったら吐かなきゃならない逃げ場がどうにもならないから間がとれるようゆったりした心身のありようを求めて。

小学5・6年生から英語が必修だなんて

川原や里山で遊んだりいろいろ運動して
家で好きなものを読み聴き愉しんでこそ。
(08.02.19)

ニャンとなく

お天気を読み損なってスキーに行きそびれ昨日みたいな散策日和はなにをやってもどこかずれたみたいいな身体感覚に戸惑う。

たまたま集まりが皆無だった夜の体育館の一人練習で不得手な技が使えそうになっていざ翌日にゲームで使うときこちなさが。

酸素を吸収し二酸化炭素を排出する呼吸を整える中半身を体軸に革袋で包んで脈動し上半身から手腕が伸び下半身を脚足で支え。

頭脳と心肺消化と性や生殖を包む骨盤の三つのエネルギー作用を二本の線で絡ませ卵形の線で包み外界と接触している人形か。

過「換気」も過剰性そのものが過度的だから社会の多様化に決まり文句だけでどこまで現在が持ちこたえられるか危なっかしい。

トイレや台所やお風呂そのほか伝い歩き

わが家のちよつとした段差も上り下り
米寿間近なおふくろのかげ声が通り抜け。
(08.02.22)

交感脱皮

二月もあとわずかになりシーズン2回目に期待して滑りに出かけた昨日の立山山麓はバドミントン練習日の大先輩も見逃さない。

日曜日に高波被害をもたらした富山湾が寒く霞んで見えまぶしいゲレンデの雪を踏みしめると鳴る音に身体も静まり返る。

老いも若さもとかく頭でつかちになりがちなんで働き盛りにもっとアタマをからだにしてからだをアタマみたいに使いこなせなかったか。

天地の律動に呼応してるみたいなフラダンスを骨盤でする心身の呼吸から性的な営みの構成まで今どきの保健体育はどう練り込めるのだろうか。

夢を見ても見なくても日常はとかく人それぞれ無意識のありようが手癖足癖になじまぬうちに身体を裏返すように第二の身体へひっくり返す。

背中を鳥のように広げてストックを握り

スキー板を竹馬のように履いただけで
斜面の水気で違う雪質の違いが愉しめる。
(08.02.26)

馴染み時

体内に木の芽時が差し込むように日ごとに寒暖の差がはつきりして二月の雪も瞬く間に消えてしまう。

シーズンに延べ400キロの滑走もいつの間にかおぼつかない有り様で身体のバランス運動を暇つぶしに。

踵を上げれば引ける後傾姿勢やつま先を浮かせば押せる前傾姿勢がスキー板の踏み方以外でも役立つ。

製本雑誌でギユウギユウ詰めの台車も両足をハの字に開いた踵で立ち把手に手を触れ身体を預けるだけで楽に動いた。

バドミントンは三十代半ばからスキーは四十代から続いている虚弱体質の当たり障り体つきも変わって生涯運動みたいになって。

いつの間にか刑事責任を持たされてしまう

14歳までに神経系統だけは成人の8割以上も
完成に近づくのに見合った心身の橋渡し運動を。
(08.02.29)

向こう見えず

降り積もった雪が溶けるたび
庭や遠くの景色が違って見え
日差しの向こうへ抜ける道が。

早過ぎるか遅れているのか
いつの間にか違う場所を歩き
通り過ぎれば道は消えゆく。

付かず離れずいつものように
体育館や教室での向きあいから
卒業式やお別れ会の案内まで。

教えるものと学ぶもの間で
私は何を知らないかを知り
問いかたの違いを体認する。

生まれ育ったところからいまも
どのように問いかけられるか
その場かぎりの動きを身上に。

そこにいるだけで心地よい

からだ感覚から家族も他人も
わけへだてる柔らかな息つき。
(08.03.04)

春一番過ぎて

昨夜来の新雪がとけてくると
黄砂でまだらになった屋根は
吸着汚染物質の波打ち模様。

ちよつと見えたかなと思つたとき
探し当てたい道筋を見失いやすく
その先へ進めない足踏みしがち。

年季を務めあげたり歳をとるつて
何やら未知の領域に入り込むから
ゆきあたりばつたりのがみつき。

打ち合わせや乗り物の席取りは
まずベンチシートの真ん中は避け
一人がけじゃなかったら端っこに。

真ん中だけじゃなく行きがけ
帰りがけのバランスそれぞれ
どう違うか気づかないことには。

ベッドに空きのない病棟で

書架から本が抜けない図書館で
患者も利用者も一筋縄じゃ立行けぬ。
(08.03.07)

ことによると

毎朝の鶯に梅がほころび
スキーに出かけて転んだら
溶け出した雪に溺れかねない。

黄砂で水辺が見通せないのか
大柄なアオサギが向かいの屋根に
あたりの越冬状況を見渡せるか。

高次化した産業構造に急かされ
あちこちの窓口に殺到しはじめ
口を開くクレーマーの喉越しに。

減ってきた物盗りに入れ替わり
血を血で洗いはじめた親子関係が
日常茶飯事のように繰り返され。

戦後のあばら家の庭に伸び放題で
払い落としたビンボーを肥やしに
咲き続けた水仙もどきの暮らし。

何ごともなかったような流れに

いらだちをぶつつける落語家が
語り続ける岸辺から崩れ落ちそう。
(08.03.18)

綴れ織り

引つ張り出したサイクリング車で
初乗り立ち寄り先の一つが県美の
「戦後美術の断片…昭和は遠くなりにけり」。

昭和三、四十年代の高度経済成長期の作品や
実際に使用されたモノから観る者の様々な
生活感情まで無音のパントマイムのようだ。

引き揚げ先が兼業三反百姓の手伝いに
小遣い稼ぎは中小製造業のおこぼれで
義務教育から高校までどうにかしのいだ。

僅かな会計事務所勤めに引き続き
図書館業務のような虚業で生計を
持ちこたえさせてくれた手応えが。

モノ一つ作ることなく稼ぎを得て
結婚と同時に家を建て子をもうけ
借金を返せばあとは何ごともなく。

すっかり変わってしまったのが

いいことなのかどういふことか
どこへも後戻りできないのも確か。
(08.03.21)

九十九折り

天気予報を彩りはじめた花便り
さあこれからという意気込みの
対岸に色んなリタイアの姿や形が。

新年度の学年歴や時間割が届くたび
次から次と司書課程を選択し続けた
学生らの後ろ姿が少しづつ遠のいて。

削減予算とたすき掛け人事でなんとか
持ちこたえている図書館を民営化すれば
図書館で働きたがっている卒業生の受皿に。

数十年関わっている校下のスポ少バドだが
このほど三代目の監督へと若返ったところで
できる子できない子それぞれが伸びる指導を。

公務員制度によらない図書館サービスみたい
型にはまらないノンキャリアならではのコーチは
怒声やしごきに頼らない心身のコミュニケーションで。

辣蕪の皮をむくような自分探しみたい

浅はかさを脱ぐには自らの身体性を探り続け
細かく折り畳んで他者の察知になじまないと。
(08.03.28)

桜前線ツアー

芭蕉の句に聞く思い様々桜だが
早春の青空を見失った天気巡りに
松川べりの開花予定も狂ったみたい。

遅咲き綾戸智恵十周年ライブを聴き
いつの間にか桜一本の咲き具合を
気に留めたりするようになったり。

物狂おしく忙しないこの十年を
女手一つで息子と母を養いながら
ファンに元気を与え続けた歌の力。

やり続けることによつてぶつかった
いかなるプラスやマイナスが合わさり
いまここでひとり立ちさせているか。

ありふれた生業の日々を綴って
時には生老病死の谷間を踏み迷い
もらったいのちをどううけつぐか。

大したことないのに手を叩いて笑い

悪受けを狙ったみたい
に毒づいたり
書き換えられた長屋
の花見で踊れるか。
(08.04.01)

調べごと

新年度の立ち位置を探してみたいに
柔らかい日差しの庭の緑を揺らし
吹き抜ける風におい立つ花のかげ。

花見どころか外出ひとつままならぬ
大正生まれのおふくろのこの頃にふと
後ろ向きの幼形成熟みたいな面影が。

物事を調べるとはどういうことなの
数年前の検索演習で学生に尋ねられ
いまだに確かに応えられるかどうか。

飲食排泄にはじまるすべてが親がかり
物心つくまでの自らを位置づけられず
遅れてやってくる了解で触覚を遠隔化。

青年から壮年を経て老年へと辿る
それぞれ節目に潜む不安定を心身の
座の力として立ち位置を探る面白さへ。

遠く離れて日教組への会場提供を断ったホテルや

それに抗議して系列をボイコットした労働団体や
ドキュメンタリー映画上映を自粛した映画館主の拠り所は？
(08.04.04)

斜に構えて

濡れそぼって散りはじめた色香に
惑わされるように出かけ2カ月ぶり
若さではち切れそうな学生の教室へ。

さて相手を上手に向きあえるような
姿勢が決まれば呼吸も落ち着くように
今どき過換気ならぬ過情報に向きあえる。

心身を一枚岩のようにして崩され
ひっくり返らないよう心身を柔らかく
隙間だらけで受け流せる構えをとって。

力を抜いてラケットを振り抜くには
手に馴染んだグリップの握力を小指から
薬指中指人差指と小刻みに伝えないと。

身体の内外に向け開いたフアインダーに
いま・ここしかないセンサーの素早い働きを
シャッターチャンスに動きを決められるか。

やってくる速さを迎えられるよう

できる限りじぶんの流れをゆっくり
相手を細かな被写体に見極められるか。
(08.04.11)

日和下駄探し

山沿いの名所は訪ねそびれたが

今年の桜は、四月馬鹿を忘れさせ

不気味な、四月危機を開花させたか。

さまざまな生活関連物価の値上がりに

一九七〇年代のオイルショックのような

トイレットペーパーや洗剤不足パニックはない。

日替わりスタンプみたいに線路への

投身や洗剤を混合して発生させたガスで

中毒死のニュースがディスプレイを凍らす。

書きたいことも写したいものも食い潰し

辿り着いた所から書いたり描いたりなんて

日々生きてあることだけでも奇跡のよう。

新野菜がヨメの手料理で口当たりが好いから

ペットに馴染めないならロボットで遊んだり

PCサウンドの耳当たりも変えてみたくなる。

やれ選択消費が必需消費を上回っただけ

どうやら窮屈になった身の振り方をつなぐ
発語をより細かくして通り抜けられるか。

(08.04.15)

老いの蔵

小雨に煙る市内をバスで西から東へ
葉桜から梨花へのグラデーションに
ふと通り過ぎた結婚記念日に気づく。

聖火リレーを追いかけるように
不穏な気流に煽られているのは
燻る民族と国民国家の振れなのか。

七十五歳以上を対象とする保険料をめぐり
始まったばかりの長寿医療制度のガタツキ
政府は千三百万の高齢者をどうしたいのだろう。

九十九歳で逝った祖父もそうだったが
米寿を迎えた母も家猫とどのように
関わったなんてとても窺い知れぬ。

思いがけない問わず語りに聞き耳を
なのに家族それぞれの生い立ちなど
老いるほどに根掘り葉掘りなんて。

頬や顎を家猫の肉球で撫でられる

ほどよい剃り心地のよさが得られて
使い古した電動シェイバーも壊れ時。
(08.04.18)

スキーから自転車へ

先週末からの陽気で新緑が芽吹く
というより吹き出す勢いに乗って
野球観戦に出かけたなら向かい風が。

ギアを落とし気味に体軸を前に傾け
両脚に連なる腰の外側を回し膝へ
力を逃がすようにペダルを漕いで。

三本の体軸を意識しなかった頃だと
やたら踏ん張って尻がサドルから離れ
吊り上がった肩で喘ぐように力んで疲れ。

今シーズンは週一が月一になったスキーだと
左右の体軸がそれぞれ膝の両側から両足の内側と
外側の二面に分割されて抜けるよう腰が左右に割れ。

一本の棒みたいに持て余す身体に
感じ通せる体軸が細かく割れるほど
蛹から蝶へと運動の愉しみが羽搏く。

骨と筋肉の動きを分けるように

発語をつなぐ沈黙が心身の繋ぎ目で
力まず弛まず呼吸の律し方も変って。
(08.04.22)

会いたい時にいない

夏日の植物園に咲きそろった
野生の桜や里桜の園芸品種など
まるで春雷を聞くような眺め。

中学校の剣道部で走らされた
裏山の山桜みたいに身体に響く
花の眺めつてのもあつたが。

立札から竹刀を抜き合わせる
やり直しの繰り返しは忘れず
足の運びだけは今でもできる。

花びら散る小学校の運動場で
行進の輪からつまみ出された
数人と一緒になぜか歩かされ。

骨盤が後ろに傾くほどに
胸が狭まり首がしゃがみ
窮屈そうなおふくろの姿。

あんなふうになる節々で

まともな立ち居振る舞う
身体感覚の更新作業は？
(08.04.25)

淡き緑に

辺りの新緑の濃淡をなぞるように
蝶が舞いはじめ体調も落ち着くと
五月の健診が無駄なことのように。

出先から帰ると玄関に筍が置かれ
在宅だったのに甥の結婚祝い物が
玄関灯に吊るされてあつたりして。

人と人との交わりは濃くも薄くも
要らぬおせっかいや無駄な押し付けを
分けあうくらいなら関わりなきこと。

しよせん人ごとに首を突っ込む先を
いかにおのれに向け掘り下げられたら
ひよつとして何かを分けあえるかも。

情報を調べるなんて授業で喋ってきて
集めようもなく感じるしかない何かと
なんとか探しだせることとの裂け目が。

それぞれのバカさ加減がどのような

局面に張り付くことになっているか
どんなにか物事の流れを妨げることか
(08.05.02)

自問愚答

爽やかさを行き過ぎた五月連休は
ちよつと身体を動かすと汗ばんで
夏場に向けての修練の繰り返しを。

スポ少バドミントンの子どもらは
ほぼ3年周期で司書過程の学生は
2年周期で顔ぶれが入れ替わるが。

学ぶこと教えることが交差する
それぞれの身体性がどのように反復し
お互いの上達にかかわるのだろう。

PEドラッカーが出会った人たちから
学習についてどのように学んだかが
「ミス・エルザとミス・ゾフィー」に。

誰しも生活時間が分断されそうに
どこまでも追いまくられるばかりで
心身の座から季節感も薄らぐばかり。

言葉を絶する大工道具の写真集に

作った職人の身体の動きはどうか
問いかげに答えられる体内感は？
(08.05.06)

どんな水辺へ

風にそよぐ柔らかい緑に
誘われるように水辺や滝に
身体を連れ出したくなる。

ガス警報器の交換ついでに
来月から義務づけられたとはいえ
火災警報器も家庭内に取り付け。

さて住んでる者の身体に食い込む
検知しようのない社会的ストレスを
放置したみたいに消火器は埃まみれ。

身ぐるみ剥がされズレるしかなく
人それぞれ遅れをとるか早回るしか
時代に棹さす我が身を取り戻しようなく。

衣食住を保つにはどのような
読み書き算盤が出来ればよいか
答え合わせもままならぬうちに。

無名の滝の流れを写しとるみたいに

向き合う相手の動きよりゆっくりした
動きで迎えられるか手の内は読めない。
(08.05.09)

五月雨裏表

廃屋の荒れ地が宅地造成され

追い出された雉が里山へ戻れず

近くの家主のいない庭地に入り。

自らに悪いことはすべて他者の所為に

曖昧な健常者かどうかにかかわらず

人々はいかように幸せ不幸せを生きる？

いずれも似たような庭木や草花が

小雨に濡れ萌える若葉の裏にひそむ

過ぎし田植え時期の肌寒さが遠ざかる。

育った結果を誰の所為にもしない

物心ついて手伝わされた田畑の

野菜や山の植林の出来の良し悪し。

雨上がりの四畳半の障子を開け差し込む

日差しが朝の散歩がわりのおふくろが

畳焼けを気遣う裏側で親子間の殺伐化。

近親間だけじゃなく地域や職域までも
つかみ所が無くなるばかりの生活感に
裏打ちされた日めくりカレンダーの破れ目。
(08.05.13)

黙って引き直す

五月晴れの見本みたいな日和にそつと足を引つ張られ背中を押されたり昨日は風邪がぶり返し冴えない教室への往復。

年取るほどに気分は体調に左右されそう自分自身だけでなく家庭の事情に引きずられ世の中のことなども晴れ間が見つけ難くなる。

昼間の仕事に引き続き夜学で恋のまね事など組合運動じゃ収まらず街頭の反権力デモへ寝に帰るだけの家は諍い事で荒れたことも。

人が関わる場の違いをどう読み込むか情報とはメディアに接する時間体験としたらその有り様の違いが錯綜しもつれるばかり。

遺伝子情報は誰の個人情報なのだろう週末婚なら熟年離婚を先取りして裏返すか散歩は起伏も無くのつべらぼうな逆立ち時空へ。

流動し浮遊する足場を均質化するスイッチが
物語を捻り潰しテレビのチャンネルをいきなり
四季の風物の眺めなどから遠くへ変えてしまう。
(08.05.16)

リセットできない

寝起きのラジオで「火山…休止」と聞こえたのが「サザンが活動休止」なんてアジアの風水害や地震災害報道とゴツチャに。

地区センターでの健診もさぼった風邪をひきなおしたみたいな週明け庭の緑も吹き千切れそうな荒れ模様。

元気な時は家族の鼻摘み者を演じがち祖父は医療費がタダだろうが大の医者嫌い健康診断や生命保険などどこ吹く風だった。

飲む打つ買うを地で行ったようだが身請けした嫁が亡くなり先立たれた息子の嫁や孫のヨメとの同居暮らし。

老いて好々爺に成り果せわが家の畳の上で遺してくれた自然死の沈黙が語り明かす事もなかった個の生涯を描く。

メモったり記録を調べたりノートに
まとめたりする作業も紙に触ることなく
やれたりする身体相互の浸透性や馴染みは？
(08.05.20)

花咲く緑に

若葉の網戸越しに風が爽やかな2階の窓際に観葉植物の鉢を置き知人宅の庭の開花模様を撮ったヨメのデジカメ写真印刷。

ディスプレイで見る写りの良し悪しに
関わらない画像情報が写真にくっついた
データから写した動機はうかがい知れない。

心身で感じるしかない情報はICTじゃ
読めも聞き取れもしないからと知ってて
つい可視・可読調べだけでどうなるものか。

自分を殺したい関連キーワードを
入力した検索サイトが返す一覧画面の
冒頭には「自殺予防サイト」の表示が。

自分との関わりから異性を含めて
世間まであの手この手の間に合わせばかり
情報探索で調べられない過換情報症候群。

どんなささいな関わりであろうと
なんとか開くように変えていけば
不可知情報のメタデータが開くか。
(08.05.23)

木の葉隠れ

あざやかに萌え揺らいだ木々など
ひと雨ごとにフツの緑に染まって
すき間からカッコーの鳴き声が響く。

落ち着き払って托卵などしやがって
この人でなしなどと言うまでもなく
鳥獣のなせる仕業がまかり通る季節に。

ピンボーで多感な青春を持て余した
昭和三十年代に殺人事件が多発したが
今じゃ事件数は減って極端な様変わり。

婆さんの昔語りから童話や小説へと
読み聞きしてきた変身譚を忘れても
胎生がはらむ獣から人へのマッピング。

人間としての架橋を孕みようもなく
何も聞こえず届かず凶器も及ばない
互いを隔てながら共に生きるよすが。

気づけばこの世でどんな橋を渡った
とにかく生き延びるためにあれこれ
どこから何まで人間として問えるか。
(08.05.30)

軒端の着こなし

ちよつとした外出にシャツだけじゃ何となく心もとないようでベストの小物入れに折り畳み傘も入らないか。

なんだか梅雨の晴れ間みたいになんだけきらない空模様で見かける猫や雉にデジカメを向けても素知らぬ顔。

苔を下に寝そべったりブロック塀に止まってひとしきり鋭く鳴いたりしていつの間にかどこかへ消えてしまう。

民家の建ち姿も様変わりしてしまいツバメが飛びはじめたというのにいったいどこで巣作りしているのか。

家屋を上手に着こなしたような庭を見かけたりすると住んでる人が世間を隔てるクッションにしているみたいだ。

庭をつぶして車庫にするなどしても
シャッターを開け放し孵った雛を狙い
蛇の一匹や二匹どこからでも現れる。
(08.06.06) (90.90.80)

虫喰い穴ぼこ

西日本では梅雨前線による大雨が東北には地形も崩れる大地震の被害がその間で北陸は梅雨を忘れる天気続き。

日常生活の切り口には様々な穴が無数に開いているのに蓋をしたり落ち込んだり心身を拭きとる言葉。

風呂場は使う度に掃除できてもトイレやサイクリング車となると汚れが目立たないうちにできるか。

やったりやらなかったり気ままな日常の穴ぼこだらけに飛び込むか塞いでしまうかそれともほつとくか。

生殖器を舐めるように花を写し庭に這いだす蜘蛛や虫も少ない夕風が吹き抜ける庭の草むしり。

手あかで汚れるくらいボディと
レンズが手に馴染んだようでも
どこかすり抜けてしまう残像が。
(08.06.17)

梅雨の調べ

わが家や近所の紫陽花が咲きそろい
ようやく梅雨の仲間入りで湿っぽく
どこか管楽器を抜ける響きが似合う。

雨の日に矢野沙織クインテットの
砂とスカートがイヤホンから流れ
海辺の乾いた湿り気で開いた傘のよう。

男の子育てには縁がなかったのだが
久しぶりに男子学生が抜けてしまった
担当授業の教室はなんとなく単色っぽい。

同性婚が認められカップルが抱きあう
海外ニュース画面からはじき出されて
ますます難しくなる異性と関わる物語。

身の丈に縛られた生活視線でうろろうろ
さ迷う姿を見下ろせる視線をどうやって
獲得してきたか調べるのが俯瞰の次元に。

南こうせつとかぐや姫の「神田川」や
さだまさしの「関白宣言」をどこでどう
口ずさんできたか6月の雨に濡れた耳に。
(08.06.20)

株分け

晴れ間の多かつた6月前半の午前には窓際の老人みたいに朝日の当たる二階の窓辺に観葉植物を置いてみた。

なんだか陸に上がった昆布みたいな狭い鉢をそつと押し広げるように脇から新しい緑が背伸びしはじめ。

迷わずさつと小さいうちに抜いてそこらに転がっていた適当な鉢に移植した二枚葉がどうなることやら。

元株の姿形とのあまりにも大きな違いを黙って確かめる成長の姿に繰り返される暗黙の対話が揺らぎ。

買い物帰りにパンクした古自転車を引きずりながら有り得べき日常から引き抜かれたように帰宅することに。

近所で言葉を交わした古株は逝って
週一訪れる体育館や教室で会う子らや
学生から新しく株分けされることも。
(08.06.24)

ムシの居所

庭に半夏生の裏表ある立ち姿が見え隠れするようになる7月の縁側でプレゼントされた花を写す。

誕生日を葉にやったことといえば生保の解約とまではいかない見直しや家計をつなぐ老齡年金請求書類作成など。

見計らい買い物番外延長みたいにヨメが添付書類を取りそろえてくれもう共働きようもない値上げの夏に。

老齡にともなう家族内での食い物や酒や家庭内暴力そのほか中毒の虫が這っても庭の虫退治とは違うどんな解毒剤が？

しがたい地位や名譽に自慢話を求めるうち浴びた毒が全身にまわりギャンブルやセックスやスポーツで加齢を飾る徒花に。

あるいは薬物や器物に依存するしかない自損や

他損への岐路で自殺未遂を生きるしかない
処方せんだけじゃなく添付書類の書き損じも。
(08.07.01)

夏への風向き

フェーン現象の昨日から真夏日にご老体が居座る四畳半の冷風・除湿器もすぐ満タンになって止まってしまふ。

一寸先のことわからないから

今が一番、なんて言ってくれるが華か歩く事もおぼつかないなすがまま。

わが家に入り浸っていた頃の孫らは動物性むき出しだったようなのに高齢のお袋みたいになると植物性が。

転んでも折れたりしないよう気配り水気を切らさず朝のうちの陽当たりどこかに向かって伸びたり縮んだり。

空調の効いた教室なのに手に熱いノートPCがフリーズし表示不能にその後はどう喋りだけで伝えられたか。

からかわれていると錯覚してみたい

キャンパスで挨拶してくる学生らの
夏に抜けだしたような脚の伸びしろ。
(08.07.04)

今朝の波紋

まるで梅雨明けを急がせるように
夜明けを突き破った雷鳴と豪雨の
名残で身体が起き上がりにくいよ。

細くなった雨脚に濡れそぼった
子ツバメらが飛行訓練のひと休み
囀り羽をもそもそ電線を揺らして。

薄陽を運ぶ風が辺りを通り抜け
遠く巻き上げられてゆく雲間から
残雪が細る連山が立ち上がるか。

濡れた庭の茂みから蝶が舞い
明るくなった空から鳥の影が
追いかけるように降りてきたり。

音楽を聴くみたいにボシユの絵が
ある日ある所で命が燃え尽きるよう
瞬く間に織り上げ消えてしまう。

初恋の人ととりまく人たちとの

出会いを織り上げたばななの新作を
またとないワインのように飲み干す。
(08.07.08)

耳寄りな話

授業より履修生の就活優先だが
地元の入社試験が木曜日に多くて
演習できない学生への対応が悩ましい。

高卒就職だったから夜学の短大で
さぞ勉学に励めたということもなく
うかうかと先生方の話を聞き逃した。

隣の長岡まで三度ばかり足を運び
吉本農業論の講演を聴いた頃だったか
富山での講演ならぜひ魚津でと夢想したが。

敗戦の日に動員先の日本カーバイトの
工場の広場で天皇の放送を聞きぼう然と
帰った吉本氏と寮のおぼさんのやりとり。

一枚にまとまる話を何枚もめぐりに
めぐって話しているとの吉本評はたぶん
詩人の谷川俊太郎だったような気がする。

あの臨場感の門戸を開いた宮下氏による

弓立社版全講演CDに続きほぼ日糸井氏がCDやDVDで終わらず全てアーカイブ化するとか。
(08.07.11)

音の出所

たまに昼下がりの散歩などといって
素見し半分家電量販店で涼んでみたり
行き帰り目にする畑作物の生育がいい。

その昔にサツマイモの蔓や葉っぱまで
今じゃカップ麺やご飯にふりかけで
しのいだりする貧乏の味が変わったか。

裏山で採った山菜で小遣いを稼いだガキが
この頃は高山の山菜や平野の野菜など新鮮な
頂き物をヨメの手で料理してもらったり。

何に飢えているのかはつきりしていた
貧乏もこの頃は何に飢えているのかも
はつきりしないビンボーに底上げされて。

耳をスピーカーに突っ込んだみたいに
機器やらチャンネルを増やしたりするうち
どうやら聴きたくなる動機も見失いそう。

さしあたって何をするでもない食後など

住み慣れた部屋で二人が聴き込んできた
LP数枚を回すだけで音楽紀行が綴られる。
(08.07.15)

芯を空っぽに

暑さのせいかわ蝉も昆虫も音沙汰なく連日の夕立のおかげで庭の水やりの手間が省けていいが草むしりも手抜き。

今週は体育館で汗をかくことが多くことのほか鶏肉やトマトなどほど良い塩梅の手料理がおいしく体調を保つ。

前期の時間講師の仕事も一段落で週ごとの準備作業の代わりに何をすることもないつかの間の夏休み気分。

一九六〇年代半ば夏の東京での司書講習より一九八〇年代はじめ夏の筑波での長期研修が生活空間と仕事空間との落差が大きく違った。

仕事を辞めてずいぶんたった今だにあのときの速度感が食い違う夢など吹っ切れることのないいま・ここが。

ベッドをやめて新しい畳に布団で

寝たり起きたりするうちにPCや
オーディオも部屋から部屋へ連れ。
(08.07.25)

夏の意欲

ここんとココピー&ペースト事件の
連鎖報道を断ち切ったさんまのお笑い
FNS27時間テレビが元気よかった。

講演パンフレットを見たばかり
中年どころか高齢の吉本さんが
この夏に三時間も喋り通したらしい。

二十年近く前の夏に朝の十時から
夕方の五時まで長岡で話されたが
あのときの隆明さんは六十五歳のはず。

出して一月近くになって請求書類が
そんぐり送り返されるなんてげんなり
社保事務所の窓口はどうなってんだらう。

年寄りの意欲をなくさせるような
仕事ぶりじゃどうしようもないが
年金はたいてでも前向きでないといと。

スーパーでは値上がりにもかかわらず

いろいろな食材であれこれ目移りしそうだが
野菜や魚はやっぱり旬のものがいちばん。
(08.07.29)

夏の乗っ越し

昨日までのような真夏日に届かず
高地に引越したみたいだ階段を
ナンバ歩きで上ったり下りたり。

列車とバスを乗り継いだ麓から
いろんな山に登り始める前だが
祖父に肥え桶を担がされたり。

肥汗が跳ねたりしないよう
空きを多めに桶を揺らさない
歩き方を工夫してみたことも。

その前に道や原っぱでの遊びは
とにかく鼻緒を切らさないよう
身体や足使いを気にするように。

しなきゃならないことというより
やりたいことを見つけたとしても
やり続けて峠に抜けられるかどうか。

海沿いのサイクリングで走り続け

休憩地で乗り込んだ観覧車で感じた
横と縦の速さの違いが暮らしの中に。
(08.08.05)

水と油

のび放題の庭の雑草が熱風に揺れ
暦の「立秋」や「残暑」にこびりつく
「天才バカボン」や「収容所群島」の作者の訃報。

敷居など掃除をこまめにやっつけていても
足裏に小さな刺が歩行の邪魔をしたり
夜目で抜けずとも朝を待つて爪で挟む。

壊れたノートPCに携帯起動ディスクを
外付けして動くようにしたり更新PCで
WinやMacが使えるよう夏の工作気分。

デジカメぶらさげ自転車散策など
日盛りにマイカー族じゃなくとも
比較して見るGSのガソリン価格。

ペットボトルで売られている水が
リッターあたりで比べれば油より
まだ高いのにいまさら気づくなんて。

茹で冷ました茶豆などつまみながら

目前の北京オリンピック中継のTV観戦で
いっどこで水と油の値段の逆転なんて。

(80.80.80)

汗かき塩梅

北京五輪の開会式放映で引つ張り込まれ見慣れない競技の中継など見入ってしまった。夏テレビ定番の高校野球観戦もおろそかに。

佳作「初恋のきた道」しか知らない

映画監督が作り上げたスタジオ映像と

中国選手の髪型やユニフォームとの落差が。

番狂わせの少ないバドミントン競技など

女子準々決勝で中国ペアを相手に戦った

日本女子二組のゲーム展開の違いが好対照。

どう転んでも試合にならない相手には

ラリーの度にシャトルをコート外に打ち返し

とにかくはやく試合を終わらせたりしたことも。

員数合わせで団体戦にかり出された時など

捨てゲームのシングルスやミックスダブルスで

そんなことをやってチームの勝利に貢献したか？

老いた身体に負荷をかけるみたい

日一日なんとか動き回っては数日寝込む
みたいなことを繰り返して祖父は白寿まで。
(08.08.12)

夏の記憶

夫を亡くした母に連れられ大陸の半島から引き揚げてきたのは六十三年前の何月かただ八月の夜空を焦がした夏の記憶が。

あの富山大空襲を魚津で学徒動員中の吉本隆明さんも眺めていたのを知ったのは地元の大学図書館に勤め著作を追っかけてから。

お盆前の週刊誌や地元紙に当時の吉本さんが立山登山の折に称名小屋で出会った鼠のことや終戦の夏の日のこと。

豪雨を抜け娘夫婦の車で数十キロ数十年前まで住み暮らした土地へ年に一度の墓参りの度に幼い記憶も。

昼をまたいだ長丁場の「日本農業論」は一九八〇年代から九〇年代への曲がり角の長岡での吉本講演の夏のひとコマ。

たまたま目にした「ゲラ」で見つけた

長岡講演の開催場所の誤植も正され

「吉本隆明五十度の講演」も届いたばかり。

(08.08.15)

負け方

夏の甲子園が終わっても時差1時間で北京から2008五輪風が吹いていてまだまだ夏休みの風聞に事欠かない。

首にかけてメダルの色とその笑顔が勝って終わったのとそうでないのでは金銀銅の表彰台の高さに釣り合わない。

ガキのころ田舎暮らしの折に引き揚げてきた満州のことや戦争のことを話してくれた人の「戦争に負けたもんはしようがない」の一言。

いまはもうない小学校の同級会だけじゃなく中学校の同窓会などへのお誘いの便りの裏に引き揚げ母子家庭へのイジメの欠片もなく。

今年も田舎に残してきた墓の周りの土が鉄砲水みたいな夏の雨でえぐられ傾き花や線香を墓石に立て掛けて手を合わせ。

どのように戦いの終わり方を生きとおしたか

子供心に戦争体験を語った村人の面影が遠のき
銀と銅の表彰台の顔の違いほどにもわからない。
(08.08.19)

縦から横へ

夏空を空竹割りしたみたいな
豪雨の後の涼しい空の雲行きに
縦から横へとのび広がる季節が。

いつもやかましく庭に訪れる蝉も
この夏は寂しいくらいだったようで
まだ蛾や大きな昆虫も見かけない。

昨晚に見かけた「神様、仏様、上野様」は
北京五輪中継の女子ソフトボール決勝だが
五〇年前の日本シリーズで稲尾投手の連投が。

同じくアメリカ主導の競技種目だからか
今大会が最後となる野球での星野ジャパンは
戦いぶりの成り行きに微妙な翳りが漂う。

日がなオリンピックピック観戦の合間をぬって
コピーなどの紙切れや書棚の整理をはじめ
ガラクタや調度品の模様替えまでやったり。

机の向きを変えたただけなのに様変わり

カタログショッピングで折り目を付けたら
捨てた以上に物を増やさず居心地は良く。

(08.08.22)

夏の虫眼鏡

例年に比べて夏の暑さというより
湿気が尋常じゃなく身体にこたえ
桁外れの豪雨が局地被害をもたらす。

我が家のあたりで出くわす虫たちも
めつきり減ったのになぜか蝶だけが
迷走する日々の庭を彩ってくれたり。

ミュンヘンオリンピックのような事件を
北京オリンピックに期待したような声も
正規雇用のなかから聞こえたようだが。

どこかで「戦争」を声高くいつのつた
昨今の非正規雇用の物言いを受けてか
たやすく共鳴できることでもあるまいに。

見たこともないような見事な蝶を見かけ
目で追いかけて後をつけデジカメで写そうにも
捕虫網ならぬメッシュの帽子も届かない。

老いた母から引き揚げ当時の話もなくなり

不順な夏を問い返すように敗戦の夏を語った
思想家の今の言葉を新聞や雑誌から拾い集め。
(08.08.29)

風の盆に

九月を待つていたみたいに庭の鈴虫が
部屋の畳を涼しくするように響きはじめ
間を置かず二代も続く首相の唐突な辞任劇。

八月末集中豪雨だけじゃなくいろんなことが
遠・中・近ところかまわず出し抜けに起こっても
当たり前みたいになり過ぎすしかないご時世に。

辞任会見で記者以上の「客観性」を主張した
与党党首の目にいったい戦後日本の質的転換が
「第二の敗戦期」と呼ばれる現実がどう見えたのか？

遠近用眼鏡の手元視界が狭すぎ手元用眼鏡でも
ぼやけて見えにくくなると首筋が疲れるばかり
中近用眼鏡を買って筋向かいの大型書店で試見。

上り下りもままならず手に取れない本の
背文字が見えたとしても瞬時に映像化され
配信される出来事の後追いにかき消されて。

身近に収縮するか遠くへ拡張するかがちな

道具を使いこなす身のこなしをバランスよく
保てるように中景が曇らないようはつきりと。
(08.09.02)

聞かせどころ

愚図ついていた空模様を横切った晴れ間もまだ秋空にほど遠いようで窓際の日差しにひたすら漕ぎまぐるソーラーサイクルの影。

去年定年退職した団塊世代の完全引退者は約2%で約8割は会社員として今だに働き続けその約9割が同じ会社で2/3以下の年収で嘱託に収まったらしい。

新調した中近用眼鏡の使い心地と慣れを試すみたいにあちこち出歩いた本屋の棚の隅っこで見つけた批評家の講演CDに聞き惚れ。

前に近所の寿司屋の二階であつた真打ち披露の演目が終わってから落語家を囲みうまい弁当を食べながら聞いた話の方がよっぽど面白かったり。

落語の方はそんなに聞いていない落語家が書き綴ったエッセイのページをめくるうちに談志門下の青春私小説を読むような響きも。

何事かを成してやり遂げようとして力むが

決定的な瞬間の直前までいかに弛めておいて
分散した力を集中できるかで結果が決まりそう。
(08.09.05)

迷路の別れ

昨日はさわやかな午後に誘われ庭の日陰を選び
草をむしれば夏の虫に混じって秋の虫も飛び出し
学校帰りの顔見知りの子らが声をかけ通り過ぎ。

風呂を浴び微睡めば夏場の手抜きで生い茂った
雑草の残り香に地産地消で食いつなぐしかない
過ぎ去った単色の食卓を飾った飲食のことなどが。

明日なき貧乏所帯だったのに酒好きの祖父は
大してうまくもない地酒をどういうわけか
小学生の頃から湯のみ茶碗に注いでくれたり。

食用米に不正転売された工業米による焼酎が
出回るくらいに胃袋に届くまでの食材の出所や
流れが辿れないくらいかけ離れ見えにくいばかり。

減多に飲むこともなくなった日本酒と入れ替わって
夫婦で飲み覚えはじめたワインも微妙に好み分け
お気に入り品種に酒蔵の畑や収穫年の気候による違いも。

物事の出所と落としどころが曖昧になるほどに

酒も飲み交わせない家庭や地域や職域に得体も知れず
掴みどころのない構えが雑草のように蔓延るだけ。

(08:09:09)
(60:60:80)

XからYへ

二階の窓際に差し込む朝の日差しが日ごとに遠のくにつれ身体的な遊びでもないけどネットで道路の散策へ。

サイクリングを楽しんだルートや音源がCDで聴けたりまだ未公開の講演の場所を探りあてマークしたり。

自作サイトをネタに使った講習会で「高屋敷の十字路」を尋ねられたがほんとうは「Y字路」でもよかった。

あちこち道筋にズームインしたりしてY字路らしきありかが目についたら航空写真に切り替えても風情までは？

ペダルを踏んで辿りついでにデジカメで写せたものからマイマップに見たり動画にしてストリートビューもよさそう。

幼かった頃の裏山歩きから本格的な山歩き

仕事がらみや私的に出かけたおりの町並み
なぜだかひっかかる場所に終着はあるか？

(08.09.12)

新米刈り入れ老人

辺りで早稲の刈り入れもたけなわだった
三連休の敬老の日に米寿のおふくろへ
民生委員の手で賞状と祝金が届いた。

本人はどう思ったかわからないが
老人構成率の高まりを物語る金額を
使おうにももう自力で出かけられない。

ネットショッピングなんてのもあるけど
身体が不自由になるほどに便利に使える
コンピュータなんてまだまだ先のこと。

蔵書の書誌データを取り込んだサーバーに
それぞれの所蔵データを入力したシステムで
その蔵書点検の際に書棚の棚卸し結果との齟齬が。

書架に並んだ本一冊ごとに外部照合書誌IDと
配架と貸出を参照できる当該図書館所蔵情報を
埋め込んだユビキタスOPACシステムだったら。

市場製品といってもハード的なものとソフト的なものでは

おそらく生産から消費までの流れが違ってきているだろうが
ただコスト差に頼る儲け追求の優先が様々な破綻の引き金に。
(08.09.16)

闇の金魚鉢

高曇りの窓の向こうに遠く連山がぼんやり
ゆっくり動く濃淡がDVDで見たばかりの
映画「ミスト」の濃霧の晴れ具合の不可解さ。

動きがトロくなつてどうにも使いづらい
デスクトップマシンをノートPCに代えてから
引き出しにしまい込め空っぽの机に戻った。

傘をさしながら肘だけを回せるように
何も持たずにやったら手首も一緒に回り
無駄な動きが邪魔をする歯痒さに苛立つ。

老境の日々を踏みつつあるおふくろも
思うように身体が動いてくれないので
とかくやることが滞ったり食い違ったり。

ぼんやりしているようで中心だけじゃなく
その周りも一緒に見たほうが的外さない
距離感を繰り込んだ動きで対応できそう。

横断歩道で車に飛ばされ山で雪崩にあったり

植物園で散策していたら鴉が襲ってきたり
とっさの受身もおぼつかなくならないように。

(08.09.19)

にわか仕込み

朝夕めつきり涼しくなるとともに平日は茂った庭の草むしりの手も抜いていられず日祭日は子ども相手のバドミントン練習など。

新たに近所の中学校の女子の部活にもつき合うようになつたりしたもんだから小学生相手の練習方法に頼つてもいられない。

中学から始めた初心者数名に小学生からの経験者が1人というメンバー構成だったが顧問の先生の意向がどうにも見えてこない。

今週末に初参加の大会をひかえてなんとか頭を下げてこられたお母さんにととてもとてもこたえられそうにないがどうにかしないと。

とりあえず子どもらの朝練の場にも誘いゲーム運びに必要な練習などやったのだが大会出場予定の1人が転んで足を挫いた。

ランニングの前の準備運動で股関節を曲げ

前屈した手が床どころか足の甲にも届かず
これからの部活練習の中味も見直さないと。
(08.09.23)

この歳にして

まだ半乾きの草など朝のゴミ出しで

夜来の雨が半袖に冷たくあたたつた午前中に
予定していたLPGガスボンベ移設作業。

昨秋の給湯器の屋外取付け工事の際はやり過ぎ
今ごろ火種から規制範囲内のガスボンベは動か
せ下請け業者の尻拭いを請け負う親ガス会社の仕事ぶり。

雪吊り用支柱や竹竿の置き場所を空けたら
道路に近くなりガス漏れ遮蔽パネルなどの
部材も要らず今後のボンベの入れ替えも楽に。

図書館の事を教えておられるようですが
今回の作業担当者から切り出されたのが
屋内での点検作業後も終わり玄関の挨拶で。

業務関連資格検定の受験勉強に迫られ
地元の図書館をいくつか訪れたらしいが
どうやら二人の男の子にも使わせたい口ぶり。

四十過ぎになってはじめて図書館に目覚めた

なんとも温かいガス会社の方のお話が聞けたが
いくつになっても自らの未熟性に目覚めていたい。
(08.09.26)

あんばやしもどき

気づけば空が高く遠い山肌が近づくように
先週末から朝晩がめつきり冷ややか続きで
温かい食事のうまさがいつそう際立つ季節に。

夕方近くに中学校の体育館に出向くようになり
バドミントン部活の女の子らが汗をかいたまま
風邪引きが気になる自転車の帰り道のほの暗さ。

たまたま街にヨメと出かけた時に昼飯の
前菜のサラダに調理されたこんにゃくが
昔を思い出す新しいうまさだったような。

背を伸ばしたくて中学で剣道を始めた頃
お祭りや縁日の買い食いだなじんだ定番が
竹串に刺したペラペラのこんにゃく味だった。

バイトした小銭を払って回したルーレットが
示した数の本数を生姜味の味噌だれに突っ込み
店のおばさんがさっと出してくれた今更の湯気。

無頓着だった暮らしのなかの味の記憶など

いつの間にか古典的になってしまっていて
食にまつわる仲間意識も薄まりゆくばかり。
(08.09.30)

謎の老人

初っぱなの授業で持参するケーブルを間違えノートPCの教材を外部ディスプレイを使って見せられないへまをやってしまうなんて。

車窓越しに金木犀が匂う日差しを浴び後期の授業開始でキャンパスに出かけた路線バスの座席は高齢者でほぼ満杯に。

外地から引き揚げ住みついた村の往来で外遊びするようになってからというものわけもなく見かける老人らが気がかりで。

家庭の事情にもまれ異性が気になりだし郷愁の底に沈んでしまったような幼少時のあの古いへの手触りは何だったのだろう。

散歩の折の本屋で立ち読み定番だった梅佳代写真集『じいちゃんさま』の中にその答えがいくつかありそうな気がして。

安全運転で停留所の乗り降りもゆったり

路線バスの乗り継ぎが間に合わなくなつて
時間つぶしに駅の本屋でとうとう買った。

(08.10.03)

夕焼けY字路

紅葉狩りに誘い出されそうな日中の陽気も朝晩はベストを着込むように季節の感触と肌触りの隙間に移ろい。

ノートPCと一緒にデジカメそのほか何を写そうという当てもない重さをシヨルダー鞆で体にまとわりつかせる。

道具や荷物の担ぎ方動かし方は身体を他人のようにならう用いるか試しながら体得できても人生の歩み方となると？

乳幼児期から思春期をへて青壮年期へ申し分なくレットルを貼られ色分けられじつとしていられない端境期に潜む節目。

厄年のように避けられない喜怒哀楽の通り抜けの積み重ねを我が身の置き所にかにかに上り下りできるようになるか。

ハンドルのある自転車はままならず
一輪車なら自由自在に走り回れたり
人それぞれの走行距離は測れなくとも。
(08.10.17)

老いる食欲

週末にバーベキューに群がる子どもらの食欲につきあつて丘陵地のバックヤードから眺めた紅葉の山々も霞んで見える好天続き。

二階の窓の手すりに干した布団が揺れ窓際のソーラー・サイクルは疲れ知らず見上げた空にゆつたりマグリットの雲が。

老い縮んだおふくろにはお寿司が秋の食欲を誘うのかしきりに食べたそうだが出前を取ったばかりじゃそうはいかない。

親子二代に渡って食材を仕入れる手つきや日々の仕込みから目の前に並べる心遣いまでそれとなく伝わる近所のお店への出入り。

わが家の外食で当たり前に続けてきたことが何だかとても得難いことのように思えるのも遠隔化する生産と消費を蝕む食の汚染のせいかな。

儲けることしか知らない会社の胃袋は
満腹知らずのマナーゲームで着膨れし
立ち位置を顧みる隙間を抜けられるか。
(08.10.21)

薄ら寒く

連日乱高下する株価のような雲行きの
隙間からのぞいた毛勝三山の稜線から
谷筋にかけての初冠雪に気づいた週明け。

いつも小屋根の上で網を張ってる蜘蛛が
真ん中から端っこに下りてきて風雨に
震えながら飛ばされないようしがみつく。

日差しが戻るといつの間にか定位置で
景気の回復を待つみたいにしじつと待つ
姿がヨメの目にもとまったようなのだ。

年金生活レベル暮らしの雑音みたいに
退職金目当てに連日のように鳴り響いた
マネーゲーム勧誘電話もびったり止んで。

地上デジタル放送とアナログ放送では
電波の速さは同じでも生番組がズレるように
子どもらの世代とは生活感が食い違う。

戦後の貧乏が当たり前みたいに物心をつけてもらったおかげで生活レベルを落とすことなどわけない所帯持ちでも。
(08.10.28)

逆さ柱

住人が去り長らく空き家になっていた中古住宅に
明かりが灯るようになったり廃屋の空き地が
新築で埋まりつつある近所の眺めに移ろいが。

地べたを突き均し並べた石に造って置いた
日本家屋が掘った穴を埋め建てる構造へと
様変わりしてしまつた居心地に馴染んだか。

かつては旬の鍋物に熱爛が嬉しくなる時節だが
この頃はリーズナブルなセットワインに混じる
テンポラリーニョやモンテプルチアーノ好みに。

半袖に短パンでワンプレイごとに歓声を上げ
連休の朝練でバドミントンを楽しむ低学年の
子どもらには肌寒さなんてどこ吹く風のように。

ところが小学生も高学年になり中学生ともなれば
上手い下手を超越した元気な練習風景もどっかへ
置き忘れてきた初心者マークのように懐かしい。

過程を飛び越し結果や成果をあげつらう風潮が
行き詰まってくる一方でギャンブル性も閉ざされ
薄ら笑いにくるまれたような冷ややかさの底から。
(08.11.04)

秋の陽射しに

やりかけのことも放り出し自転車で
街中の秋の陽射しをふらふらかき分け
帰路を飛ばせば風で帽子も脱げそうに。

結婚前に十年余り続いた山歩きでは
帽子そのほか忘れ物は一度もないのに
繰り返したJRやバス通勤での置き忘れ。

昨日晴れた日中に帽子に鞆で乗り継いだ
がら空き路線バスが眠気を誘う暖かさで
いつもの停留所で降りたら頭がひんやり。

煩わしい遺失物係とのやり取りよりも
とりあえず走り去るバスを追いかけたら
赤信号で止まってくれ降り口扉を叩けた。

青信号に変わる前にご迷惑をすみませんと
急いで降りる背中にこちらこそ気がつかず
申し訳ありませんとおばさん運転手の声が。

乗降客の安全はもちろん手荷物だけじゃなく
被り物まで日頃の気働きを乗せたバスが去り
乗り越しかけた座席のぬくもりが帽子に残る。
(08.11.07)

寢覚めぬ夢

秋風に舞った紅葉の輝きも一夜明ければ
濡れ落ち葉の艶つぽさとなつて落ち着き
行き交う人影に混じり込むように沈んで。

山桜を淘汰したみたいなのソメイヨシノが
紅葉した樹々には敵わないみたいに舞つた
日本一西武球団の監督と投手の重さと軽さ。

井戸水の蛇口はしばらく出して洗顔を
温もりで目覚めたみたいに数十年あまり
使っていないかったわが家のガス配管暖房。

・オイルショックの新築時に組み込んで
・金融ショックの今頃になつてようやく
とにかくローンを組まない暮らし向きで。

日本の首相がポロポロ入れ替わろうが
アメリカの大統領に誰がなつたとしても
時価総額を追うしかない金融資本絡みで。

放つといても欧米化を追いかける暮らし
噛みしめる進歩の葉っぱの裏にも表にも
支えてきた幹にも制度疲労の虫食い跡が。
(08.11.11)

折り返し日和

出かけた市内の街筋のあちこちで
薬師から毛勝岳へとたどる稜線の
連なりが深まりゆく秋をにじませ。

紅葉狩りを締めくくるような小春日和も
年寄り弱りで歩けなくなった人肌には
天日干しした布団で感じてもらえるか。

テレビで見かけた歩行支援ロボットだが
健常者の障害時だけでなく人が行き着く
老境を歩む心身の季節に届く全天候型は。

寝起きから始まる立ち居振る舞いを
着こなせなくなった身体が狭まった
日常をはみ出す老年の出口は如何に。

昨日みたいにする満月と沈む夕日に
映える第二の自然に出会ったりする
帰り道がまたとない一日の終わりに。

その時々、の身体を整え続けることに
上手いも下手もひっくるめどこそここで
止まらず何事も開いていくしかない。
(08.11.14)

名残り人

水はけの良くない小学校の運動場脇の
薄汚いプールに飛来した鴨が戯れるように
連休三日とも薄ら寒い体育館に出かけた。

この秋に届いた小学校や中学校の同級会のお誘いをいつものごとく辞退していたのに送られてきた参加者の顔ぶれ写真に戸惑う。

見れば見るほど誰が誰やらさっぱり

おふくろより若い恩師の面影もぼんやり
半世紀を遡るレールの向こうが途切れて。

おそらくどこかで出会っても気づくことなく
行き違って赤の他人に紛れるしかなかろうに
同封されてきた当時の復刻文集の名前に覚えが。

ガリ版印刷されたページをめくり返し見れば
雑書きや詩文や寄書きからこぼれ落ちた風景が
日光写真のようにあぶり出されてきたりする。

雇い止めを食らった元仕事仲間が経営者に
転身したその後の順調な姿で訪ねてくれたり
誰彼なく生と死がブレンドされた日常に新酒を。
(08.11.25)

それにしても

普段は滅多に見かけない小鳥などが
天候が崩れる下り坂を見計らったように
いろんな群れに紛れあたりを飛び交う。

晴れ間に庭の草をむしり落ち葉を集め
続けて家の中の階段を上がり下り掃除など
やったはよいがシャワーの後にどつと疲れが。

心身をめぐり調べながら齢を経るには
身の回りから遙か遠く見えない彼方へ
それぞれ辿るべき段階の踏み場が頼り。

物語が紡げない現状から場当たりに
やるしかないにしても探し物をいきなり
国会図書館で始め事後の出頭が警視庁とは。

水道も電気もネットも断ち切ったり
家財を処分し部屋を空っぽにしても
どこまで即身成仏の筋道が辿れよう。

あたりまえだったことがそうでもない
加齢にともなう衰えに段階なんかなく
ある日突然にやってくるようなものか。
(08.11.28)

新婚もどき

ひよいとカレンダーをめくればもう
立山連峰が霜月の雲深く錦繡を畳み
暮れる冬化粧の陰影を際立たせて。

はじめての死の感触が今だに手のひらに
なぜか隣家の暖かい火燵に横たわっていた
幼い頃の遊び友達だった女の子の冷たさ。

体育館でスポ少の小学生や部活の中学生らが
そして教室では学生らもその時々々の旬の姿で
過ぎ来し方も行く末もわからない沈黙を刻み。

おふくろは八十歳も半ばを過ぎてしまえば
何か食べたくなったら食事時になったり
寝たくなったらもう夜という沈黙に紛れ。

在るがままその時々々の無意識に流され
怒ったり声を荒げて指導なんかしたが
ああしろこうしろだなんてお節介焼き。

リタイアしてはじめて後払いされたみたい
遅れてやってきた新婚時間なども平穩無事に
山場の一つや二つ越えてゆければ儲けもの。
(08.12.02)

雑談@体育館

先週末は生憎の空模様で流星群や満月を眺めたりするような散歩もやれなかつたり何となく閉塞感が。

昨日は寝起きの西空に朝立ちの月影が今朝は地表の熱気が天空に抜けきって東の空に処女雪の山肌が聳え立ったり。

肌寒い夕方の中学校の体育館での部活などもまずコートの内外をめぐるシャトル置きからフットワークなど手や足による了解と働きかけ。

進路をめぐる三者面談が気になる年頃に伸び盛りの手や足で道具の使い方を覚え関係づけられる領域を確かめる歩き方に。

肚を異性に頭を自分に胸を社会に開き手と足で消費と生産を繰り返す身体性を拡張し続ける触覚や嗅覚から聴覚や視線が。

狭苦しい言葉や行為を裏打ちしている
沈黙を読み込んだ言葉に出会えるよう
見聞きし読んで身体作りトレーニング。
(08.12.16)

不断の仕事着

十字路で立ち話抄二〇〇七年一月～二〇〇八年十二月

発行 二〇一五年三月五日

著者 吉田 恵 吉

編集・発行 〒939-8036 富山市

高屋敷731-6 吉田恵吉